

條ニ依ルヘキモノトス然レトモ遊覽船ナレハ實際ノ處分ハ寄港ト認メサルヲ穩當トス(三四年民利局長回答)

◎本條ノ違反ノ船舶ト差押ノ方法

違反ニ係ル船舶ハ現行犯ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ差押フルコトヲ得若シ公力ヲ用フルノ必要アルトキハ一般差押物件ノ例ニ依ルノ外方法ナシ但一般差押ノ例ニ依ル能ハサル場合ハ其都度請訓スヘシ(司法大臣民利甲第三號訓令)

第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テモモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

◎公用船ノ衝突ニ因レ價權ト時効(續商法一一九二頁)

◎右同旨(大阪控一一年評論一卷諸法一五四頁)

◎公用船ト商船トノ衝突ト準據法

一 加害船カ商船ニシテ被害船カ公船ナル場合ニ於テハ假令衝突ナル一個ノ事實關係ニ基テ損害賠償請求ニ付テモ被害船ニ付テハ商

拘ハラス之ヲ汽船ト看做シ居レルカ故ニ發動機ニ依リ運航スル船舶ノ汽船ナルヲ論テ俟タサルモノトス(山口地下關支部一四年評論一四卷諸法六頁)

第三條 船籍港ハ市町村ノ名稱ニ依ル但市制町村制施行セザル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキ區畫ノ名稱ニ依ル

船籍港ト爲スヘキ市町村及之ニ準スヘキ區畫ハ船舶ノ航海シ得ヘキ水面ニ接シタルモノニ限ル

◎本條ノ船籍港タルヘキ市町村

船舶法施行細則第三條ニ規定セル船籍港タルヘキ市町村トハ水面ニ接シタル市町村ト解釋スヘキモノトス(民事局長元年民三四六號回答)

第四十三條 船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲ケヘシ

- 一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ
- 二 帝國ノ燈臺又ハ(海岸)望樓ヨリ要求セラレタルトキ

諸法令 (シ) 船舶法施行細則 三條 四三條 船舶管理法

法第五編ノ規定ノ適用ヲ爲スヲ得サルモ加害船ハ商船ナルヲ以テ商法第五編ノ規定ヲ適用スヘキモノトス(大阪控一一年評論一卷諸法一五四頁)

二 公用船ト商船トノ衝突ト準據法(續商法一一五六頁)

船舶法施行細則

(明治三十二年遞信省令第二十四號)

第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ機械力ヲ以テ運轉スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用フルト否トニ拘ラス之ヲ汽船ト看做ス  
主トシテ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス

◎發動機ニ依リ運航スル汽船

船舶法施行細則第一條ニ依レハ船舶ノ種類ヲ汽船ト帆船トニ分テ機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用フルト否トニ

- 三 外國ノ港ヲ出入スルトキ
- 四 外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ
- 五 法令ニ別段ノ定メタルトキ

◎商船ニ軍艦旗ヲ掲ケタルモノノ處分

商船ニ軍艦旗ヲ掲ケタルモノハ船舶法施行細則第四十三條ニ該當スル場合ヲ除ク外處分ナシ(民利局長三二年回答)

船舶管理令

- ◎海商法ト船舶管理令トノ適用順位(續商法一一五四頁)
- ◎海商法ト船舶管理令トノ關係(續商法一一八〇頁)
- ◎船舶管理令ト備船契約解除(續商法一一七八頁)
- ◎管理令ト船長ノ特別權限トノ關係(續商法一一六四頁)

船舶検査法

(明治二十九年法律第六十七號)



第十條 通信大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶検査證書ハ假

書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶検査證書ハ假  
書ニ記載スル船舶ノ航路定限、航行期間若ハ氣壓制限ヲ超エテ航行  
シ又ハ検査官吏ノ監視ヲ拒ミ若ハ航行停止ノ命ニ違背シ又ハ器具ノ  
整備ヲ爲サスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキハ船長ヲ三十圓以  
上三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
二項三項略

◎本條第一項違反罪ノ成立要件

船舶検査法施行細則第三十四條以下ノ規定ニ依レハ船舶検査證書  
記載ノ航行期間經過ノ後ト雖モ尙適法ニ航行スルヲ得ヘキ場合存  
スルヲ以テ被告ニ對シ船舶検査法第十條第一項違反ノ行爲アリト  
爲スニハ叙上施行細則ノ規定ニ該當セザル場合ナルコトヲ列示セ  
サルヘカラス(大審七年法一四三六號二三頁)

◎無檢印ノ屬具使用ト其處分

無檢印ノ屬具ヲ備付使用シタルモノハ船舶検査法ヲ適用スヘキ船  
舶ニ限リ船舶検査規程第六十二條船舶検査法第十條ニ依リテ處罰  
シ船舶検査法ヲ適用セザル船舶ニ付テハ處罰スルコトヲ得ス(民

諸法一三四頁)

◎船舶登記ニ對スル再抗告ト新事實

船舶登記ニ對スル再抗告ニ於テ新事實ノ主張ハ之ヲ許サザルモノ  
トス(大審六年評論六卷諸法四四六頁)

第十條 登記證書カ滅失シタルトキハ船舶力船籍港ニ碇泊スル場合ニ  
限リ所有權ノ登記名義人ハ其登記ヲ爲シタル登記所ノ所在地ヲ管轄  
スル區裁判所ノ許可ヲ得テ更ニ登記證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ區裁判所ハ裁判ヲ爲ス前船長ヲ訊問スルコトヲ  
要ス

◎本條ノ所謂滅失ノ意義

船舶登記規則第十條所定ノ船舶登記證書ノ滅失トハ其文理解釋上  
ヨリスレハ物質的毀滅即チ當該船舶登記名義人ニ於テ船舶登記證  
書ヲ取得シタル後之ヲ喪失滅失シ又ハ毀損ニヨリ證書トシテ其用  
ヲ爲サザルカ如キ場合ノミチ指稱スルノ觀ナキニ非スト雖モ顯テ  
同規則ノ船舶登記證書及之カ再交付ヲ認メタル律意ヲ考厥スレハ  
敢テ叙上ノ如キ場合ノミニ之ヲ限局シテ解釋スルノ要ナク凡ソ船

諸法令 [七] 船舶登記規則

一〇條

刑局長三四年甲第三六一號回答)

船舶登記規則

(明治三十二年勅令第二百七十號)

第一條 不動産登記法第二條乃至第七條第九條第一項第十條第十二條  
第十三條第十八條乃至第三十五條第三十八條乃至第六十六條第六十  
九條乃至第七十八條第一百條第一百零二條第一百零八條第一百十七條第百十九  
條第二百十條第二百二十二條乃至第二百二十七條第四百一十一條第四百十  
二條第四百四十四條乃至第四百四十八條第四百四十九條ノ二乃至第四百十  
九條ノ五及ヒ第五百十條乃至第五百十九條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之  
ヲ準用ス

◎船舶登記ヲ受ケ得ヘキ者(第一八條)

◎外國法人ノ船舶取得ト日本船籍ノ喪失(本卷船舶法一條)

◎保存登記ノ無効ト更正登記ノ許否

船舶所有權保存登記カ其根本ニ於テ無効ナル以上ハ船舶登記規則  
第一條不動産登記法第六十三條ニ規定セル更正登記ノ方法ニ依リ  
テ之ヲ有效ナラシムル餘地ナキモノトス(大審一〇年評論一〇卷

船舶登記證書ヲ前登記名義人ノ手裡ニ存在スルノ間ニ其所在不明ト  
ナリ從テ當該登記名義人ニ於テ證書ヲ取得シタルコトナク又其  
所在不明ニ至リタル原因ヲモ知ル能ハサルカ如キ場合チモ亦之ヲ  
包含スルモノト解スルヲ至當トス(東京地五年法一一三五號三〇  
頁)

附 競落ニ依ル船舶所有權移轉ノ場合ニ於テモ競落人ハ前所有者  
ニ對シ其船舶登記證書ノ引渡ヲ請求スル權利ヲ有スルモノトス  
(同上)

第十一條 所有權ノ登記名義人ハ登記證書ヲ提出セスシテ登記ヲ申請  
スルコトヲ得此場合ニ於テハ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要  
ス  
前項ノ場合ニ於テ登記證書ヲ提出スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ  
之ヲ提出シテ更ニ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

◎船舶登記ト名義人

船舶登記規則第一一條第二項ニ依ル登記ノ申請者ハ登記簿ニ記載  
アル所有權ノ登記名義人ニシテ現所有者(買主)ニ非ス(大審五

一一條

1011



年評論五卷諸法三九〇頁)  
附 右條項ニ依リ申請スル登記ハ船舶所有權移轉ノ本登記ナル事  
明瞭ナリトス(同上)

◎本條第二項ノ登記ト登録稅

船舶登記規則第一一條第一項ニヨリ特別登記簿ニ登記ヲ爲シタル  
後同條第二項ニヨリ更ニ登記ヲ申請スルトキハ其ノ登録稅ヲ要セ  
サルモノトス(法曹會決議一三年雜誌一二卷三號七五頁)

第十八條 所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記權利者  
カ日本人ナルコトヲ證スル戸籍吏ノ書面其他之ヲ證スルニ足ルヘキ  
書面ヲ添付スルコトヲ要ス

◎船舶登記ヲ受ケ得ヘキ者

船舶登記規則ニ依リ登記ヲ受ケ得ラルルモノハ日本船舶ニ限ルチ  
以テ外國法人カ船舶ニ對スル所有權ノ取得ハ前記規則ニ依ル本登  
記ヲ受クルニ由ナキモノトス故ニ其假登記モ亦之ヲ爲スチ得サル  
ハ勿論ナリ(大審六年民二二一七頁)

◎同旨(神戸地六年法一三二二號三頁)

◎製造中ノ船舶ト登記事項ノ證明者

◎特別登記簿中ノ錯誤記載ノ效果

製造中ノ船舶ニ付キ抵當權ヲ設定シ之レカ特別登記ヲ申請スル場  
合ニハ船舶登記規則第三十三條ニ掲ケタル事項ヲ證明シタル造船  
者ノ書面ヲ添付スルコトヲ要スレトモ造船者ト船舶所有者ト同一  
ナル場合ニ在リテハ造船者ノ證明ニ代ヘ現ニ其船舶建造ノ任ニ當  
リタル技師長等登記官ニ於テ摺信シ得ヘキモノト認ムル者チシテ  
右ノ事項ヲ證明セシメテ登記ヲ爲スチ妨ケサルモノトス但道ハ登  
記手續ノ便宜上技術者チシテ證明セシムルニ止マリ固ヨリ造船者  
ト爲スモノニ非サルチ以テ特別登記簿ニハ船舶登記規則第三十三  
條ノ六號ニ依リテ造船者ノ氏名ヲ掲載セサルヘカラサルモノトス  
(大審一〇年民六八七頁)

特別登記簿所有權欄中ニ何那村何番地所有者某ト記載シアリテ  
船舶登記規則第三十六條ノ要求スル登記義務者ノ氏名及住所ヲ明  
記シアルトキ如何ナル船舶ニ付キ登記ヲ爲シタルヤハ登記簿上  
他ノ事項ト相俟チテ之ヲ知ルコトヲ得ヘキトキハ偶叙上表示欄中  
造船者ノ氏名ノ記載ニ錯誤アルモ之ヲ以テ直チニ右登記ヲ全然無  
效ト謂フチ得サルモノトス(同上)

第三十五條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコ

諸法令 [七] 船舶登記規則

三五條

三七條 三八條

10111

第三十三條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申  
請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

- 一 船舶ノ種類
- 二 龍骨ノ長サ若シ船舶カ石數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノナルト  
キハ航ノ長サ
- 三 計畫ノ幅及ヒ深サ
- 四 計畫ノ積量
- 五 製造地
- 六 造船者ノ氏名、住所若シ造船者カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ  
事務所
- 七 不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項

第三十四條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申  
請書ニ前條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ證スル造船者ノ書面  
ヲ添付スルコトヲ要ス

トヲ要ス

第三十七條 製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲  
ス場合ニ於テ船舶籍港カ抵當權ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬ス  
ルトキハ所有權ノ登記ヲ爲シタル後其登記用紙ニ抵當權ノ登記ヲ移  
スコトヲ要ス  
抵當權ノ登記ヲ移スコトキハ其登記ノ末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記  
ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス  
抵當權ノ登記ヲ移シタルトキハ之ニ關スル特別登記簿ノ用紙ヲ閉鎖  
スルコトヲ要ス

第三十八條 製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲  
ス場合ニ於テ船舶籍港カ抵當權ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬セ  
サルトキハ申請書ニ特別登記簿ノ原本ヲ添付スルコトヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ特別登記簿ノ原本ニ依リ登記簿ニ抵當  
權ノ登記ヲ移スコトヲ要ス  
前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
前記所カ特別登記簿ノ原本ヲ交付シタルトキハ其用紙ヲ閉鎖スル

三七條 三八條



コトヲ要ス

◎特別登記簿ノ性質

◎特別登記ト併存セル登記ノ效力

一 製造中ノ船舶ニシテ未ダ完成セザルモノヲ目的トシテ抵當權ノ設定登記ヲ許容スル特別登記簿ハ取引上ノ便宜ニ供センカ爲メニ法律上完成シタル船舶ト同一ノ取扱ヲ爲スモノニシテ其性質上假登記ニ酷似シ抵當權ノ效力ヲ確保スルト同時ニ船舶所有權ノ存在ヲ假設的ニ認メタルモノトス從テ右特別登記ヲ爲シタル船舶ノ工事完成シ所有者ニ於テ該船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲スニハ船舶登記規則第三十七條同第三十八條ノ手續ヲ要スヘク工事完成前ニ船舶ノ讓渡ヲ受ケタル者ハ右登記手續完了後所有權移轉ノ登記ヲ受ケヘク同一ノ船舶ニ付キ二箇ノ登記ノ併存ヲ許サザルモノトス——如上ノ船舶ヲ買受ケタル者カ同船舶ニ付キ既ニ適法ニ爲サレタル抵當權ノ特別登記ノ存スルニ拘ハラズ其登記ノ存セザルモノトシ直ニ自己ノ爲メニ所有權保存登記ヲ受ケルモ該保存登記ハ所謂一船舶一用紙主義ニ背反シ登記ノ統一ヲ紛更スルモノニシテ無効ナリトス(大審一〇年民六八八頁)

二 特別登記ト併存セル登記ノ效力(續商法一一〇七頁)

船舶職員法

第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

◎海技免狀ナキ者ノ雇入ト船舶所有者ノ責任

船長ニ於テ海技免狀ヲ有セザルモノヲ雇入ルルニ付キ船舶所有主ノ承認ヲ經タルモノナルニ於テハ船舶職員法違犯ノ罪ハ船舶所有主ニ在ルチ以テ船長ハ其責ニ任セス(民利局長三一年甲第二五一號回答)

第八條 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ相當スル船舶職員ヲ乗込マシメザルトキハ船舶所有者、船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人、船舶貸借ノ場合ニ於テハ貸借人チ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

二項三項略

◎船舶職員法ト所有者ノ意義及要件

船舶職員法第八條ニ所謂船舶所有者中ニハ虚偽ノ意思表示ニ非スシテ信託行爲ニ因リ外部關係ニ於テ所有權ヲ取得セル者ヲ包含スト解スヘク而シテ同條ニ所謂船舶所有者タルニハ現實ニ船舶ノ上ニ所有權ヲ有スルチ以テ足り船舶登記簿ニ船舶所有者トシテ登錄セラレタルト否トヲ論セス又現實ニ船舶ノ上ニ事實上ノ支配力ヲ有スルト否トヲ問ハサルモノトス(大審七年刑八三一頁)

◎本條第一項ノ罪ノ成立要件

船舶職員法第八條第一項ニ依リテ船舶所有者船舶管理人又ハ船舶賃借人チ處罰スルニハ是等ノ者カ法定ノ資格アル船舶職員チ乗組マシメサルコトヲ必要トスルモノニシテ其ノ所謂乗組マシメサルトキトハ是等ノ者ニ於テ全然其ノ職員ノ配置ヲ爲サズ又ハ之ヲ配置シタルモ特ニ其ノ意思ニ依リテ之ヲ乗船セシメサル場合ヲ謂フモノニシテ單ニ配置セラレタル職員カ故意又ハ過失ニ因リテ乗船セサル場合ヲ謂フモノニ非スト解スルチ相當トス(大審一二年刑一〇〇二頁)

第十三條 船長ハ海員チ指揮監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

◎船舶ノ引卸ト船長ノ職務

一 凡ソ船長ハ船員チ指揮監督シ船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ人命船舶及積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡スヘキ任務ヲ有スルコト船舶職員法第十三條第十九條ノ規定ニ照シテ明ナレハ船長トシテ乗組ミタル船舶カ坐洲シタルトキ之ヲ引卸スハ即チ船舶ヲ保護スル所以ニ外ナラスシテ其ノ引卸作業ヲ爲スハ船長ノ職務ノ範圍内ニ屬スルモノトス(大審一三年刑七七八頁)

二 第一點ニ於テ説明シタルカ如ク判示坐洲セル汽船御浦丸チ引卸スハ船長タル被告ノ職務行爲ニ屬スル以上ハ判示ノ如キ方法ニ於テ其ノ引卸作業中他ノ船舶チシテ曳綱ノ上ヲ通過セシムルニ方リテハ其ノ船舶チシテ安全ニ通過セシムヘキ必要ナル方法ヲ講スルコトモ亦被告ノ職務上ノ義務ニ屬スルモノト論斷スルチ相當トスヘシ然ラハ所論判示曳綱鋼索ノ一端チ直ニ遣リ放チ得ル方法ヲ講セザリシハ即チ業務上必要ナル注意ヲ怠リタルモノト認定セザルチ得ス(同上七七九頁)

船員法



第十五條 船舶が港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ、其他危險ノ虞アルトキハ、船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス。

◎本條ノ旨趣

船員法第十五條ノ規定ハ船舶運航上發生スルコトアル可キ危險ヲ防止スルノ目的ヲ以テ船長ニ甲板ニ在テ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ命ジタルモノニシテ其危險ノ多ク發生シ易キ港灣ノ出入若クハ水路通過ノ場合ニ在リテハ法律上常ニ危險ノ虞アルモノト推定シ現實危險ノ有無ニ關セス必ス船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶指揮ノ任ヲ荷フヘク其他ノ場合ニ在リテハ危險ノ虞アルトキト同様ノ任ヲ負フ可キ趣旨ト解セサルヘカラス(大審六一年刑一四五頁) 附 運航中ノ船舶が港灣境界線内ニ在ル以上所謂船舶ノ港灣出入ノ場合ニ該當シ現實其危險ノ虞ノ有無ニ關セス船長自ラ其指揮ノ任ヲ負フヘキモノニシテ鑑定人ノ供述如何ニ因リ之カ適用ヲ左右セラルヘキモノニアラス(同上)

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到着シタル港ノ管海官ニ

且旅客船員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ船舶ヲ去ルコトヲ禁シタルモノトス從テ去立ルノ意思アリタル以上ハ船客ヲ見捨テルノ意思ノ有無ヲ同ハス同法條ノ違背タルヲ免カニス(大審三五年刑五卷五二頁)

第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其船員手帖ヲ管海官ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

◎船員手帖等ノ證據力(民訴訟二九六頁)

第六十四條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス 海員カ脱船シタルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス 海員カ外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

◎海員ノ脱船

船員法第六十四條第二項ニ所謂海員ノ脱船トハ海員カ其ノ職務ヲ諸法令 (七) 船員法 二九條

出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス(中略) 三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ(下略)

◎海難ノ認否

船長ニシテ其當時ノ天候風浪等ヲ以テ海難ト認メタランニハ須ラカ管海官廳ニ其旨ヲ報告セサルヘカラサル筋合ナルニ拘ハラス同船長ニ於テ該廳ニ出頭セサリシハ其航海中ニ於ケル天候風浪等ハ海難ト認メサリシ結果ナリト推定シ得ルモノトス(東京控四三年評論一卷諸法二六三頁) ◎船長竝ニ船員ノ責任(商法三二〇頁)

第十九條 船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客船員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

◎船長ノ船舶去立

船員法第十九條ハ船長ハ人命船舶等ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ

リ全然離脱スル目的ヲ以テ乘込船舶ヲ去ル行爲ヲ指稱スルモノトス(大審一一年刑一一二頁)

◎海員脱船行爲ノ裁判管轄

領海ニ於ケル海員脱船ノ行爲ハ刑訴第三十條ノ適用ヲ受クヘキモノニアラサルヲ以テ犯罪ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトス(民利局長三七年甲第五九號回答)

第七十二條 海員カ相黨與シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處断シ首魁ハ一等ヲ加フ 一 職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

二 脱船シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス 三 第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

◎海員ノ黨與ノ意義

船員法第七十二條ニ「海員カ相黨與シテ」トアルハ一人ノ海員カ六四條 七二條 一〇二七



他ノ一人若ハ其ノ以上ノ海員ト一定ノ目的ヲ以テ通謀シ合同結束  
スルノ謂ニシテ必シモ多衆ノ團結ヲ要セサルモノトス蓋同條第一  
號乃至第三號ノ所爲カ一人ノ力ニ出ツルト二人以上ノ合同力ニ出  
ツルトハ船長其ノ他上級船員ノ海員ニ對スル制御統率上ニ於テ鈔  
カラサル難易ノ差アルコト論ヲ俟タズ法ノ虞ルル危險ハ必シモ多  
衆ノ結合ニ峽タサレハナリ(大審一一年刑五七七頁)

第七十三條 船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ  
又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又  
八十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

◎本條ノ犯罪構成

船員カ沿岸ノ航海ニ於テ專ラ豫定ノ方位ニノミ著眼シ陸地ノ遠近  
ニ注意セザリシ爲メ其船舶ヲ轉覆シ人ヲ死ニ致シタルトキハ船員  
法第七十三條ノ犯罪ヲ構成ス(大審三七年刑一五七三頁)

戰時利得稅

(大正七年法律第九號)

◎鑛業權ノ賣却金額ノ意義

第七條 船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ賣却金額ヨ  
リ命令ノ定ムル所ニ依リ算定シタル價額ヲ控除シタル金額ヲ以テ第  
三條第一項第三號ノ利得金額トス但其利得金額カ第三條第一項第二  
號ノ利得ニ屬スルモノナルトキ又ハ利得金額三千圓未滿ナルトキハ  
此限ニ在ラス  
前項ノ利得金額ハ前年中ノ總額ニ依ル

戰時利得稅法第七條ノ鑛業權ノ賣却金額トハ鑛業權ヲ賣却シタル  
代金ノ義ニアラスシテ鑛業權移轉ニ對スル反對給付ノ價額ノ義ナ  
リトス——鑛業權賣却代金ノ一部ノ履行期カ契約締結ノ年以後ナ  
ルトキハ其實却金額ハ契約年度内領收シタル金額ト契約締結ノ年  
ノ終ニ於ケル債權價格ト合算シタル金額ニシテ其債權價格ハ履  
行期日迄ノ日數ニ應シ法定利率年五分ノ割合ニヨリ計算シタル金  
額ヲ控除シタル殘額ナリトス(行政一一年評論一—卷諸法三〇五  
頁)

專賣鹽特別定價賣渡及交付  
金下付規則

◎本規則第十六條ノ解釋

- 一 專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則第十六條第一號ハ當初ヨ  
リ惡意ナク眞實外國ニ輸出シ又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル  
意思ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ許可ヲ經シテ他ニ讓渡セル場合  
ヲ規定シタルモノトス(大審四〇年刑一〇七四頁)
- 二 專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則第十六條第一號ハ當初ヨ  
リ外國ニ輸出スル意思ナクシテ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル場合ヲ規定シ  
タルモノニ非ス(大審四三年刑五四〇頁)

訴願法

(明治二十三年法律第五號)

第一條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外左ニ掲ケル事  
件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

諸法令 [七] 專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則

- 一 租稅及手数料ノ賦課ニ關スル事件
  - 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
  - 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
  - 四 水利及土木ニ關スル事件
  - 五 土地ノ官民有區分ニ關スル事件
  - 六 地方警察ニ關スル事件
- 其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

◎訴願ヲ提起シ得ヘキ場合

- 一 明治二十三年法律第五號ニ依レル訴願ハ行政廳ノ處分ニ對シ  
之ヲ爲スモノニシテ私法上ノ争ニ付キ提起スルモノニ非ス(大審  
二七年民二六二頁)
- 二 明治三十二年法律第八十五號國有林野法施行以前ト雖モ國有林  
野ノ境界査定ニ不服アル隣接地所有者ハ同二十三年法律第五號  
訴願法第一條第五號並ニ同年法律第六號行政廳ノ違法處分ニ關  
スル行政裁判ノ件第五號ニ依リ訴願及ヒ行政訴訟ヲ提起シ得タル  
モノトス(大審四一年民五七三頁)
- 三 選舉人名簿ニ關シ適法ナル異議申立アリタルニ拘ラス町村長カ  
町村會ノ決定ニ付スルコトナク直ニ之ヲ却下シタル場合ニ於テ町

[7] 訴願法 一條

一〇二九



村會ノ決定ナキハ是レ町村長ノ違法處分ノ結果ニ外ナラスシテ異議申立人ノ責ニ歸スヘキモノニ非サルカ故ニ此ノ場合ニ於テハ恰モ町村會ノ決定ヲ以テ却下シタル場合ト同シク府縣參事會ニ訴願ヲ爲スコトヲ得ルモノト解スルヲ以テ町村制ノ精神ニ合スルモノト爲ササルヘカラス(行政一一年法一九六五號二二頁)

第二條 訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ  
國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願セントスル者ハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

◎處分官廳ヲ經由セサル訴願ノ效力

一 處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由セスシテ提出シタル訴願ハ法定ノ手續ニ違背スルモノナルヲ以テ假令後日其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ其ノ補正書ヲ提出スルモ之ニ依リ訴願手續法ト爲シ

公賣公告ニ對シ訴願ヲ爲スハ別個ノ處分ニ對スルモノニシテ同一事件ニ非ス從テ第二ノ訴願ニ對シ訴願法第四條ニ該當スルモノトシテ之ヲ却下シタル裁決ハ失當ナルモ行政訴訟ニ於テ訴願ノ目的タリシ處分取消請求力成立タサル以上ハ該裁決ヲ取消スノ要ナシ(行政四年法一〇八〇號一七頁)

第六條 訴願書ハ其ノ不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ  
訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ並下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

◎訴願理由ノ追加

選舉ノ效力如何ハ之ニ關係アル諸般ノ事項ヲ調査シタル上ニ非サレハ之ヲ決スルコト能ハサルカ故ニ裁決廳又ハ決定廳ハ申立ノ有無ニ拘ラス是等ノ事項ニ付審査スヘキモノトス從テ訴願人又ハ異議申立人ハ裁決又ハ決定前ニ在リテハ選舉效力ニ關係アル一切ノ理由ヲ追加スルコトヲ得ルモノナルニ依リ追加シタル理由方前ノ理由ト其ノ性質ヲ異ニスレハトテ別箇ノ案件ヲ成スモノト謂フコトヲ得ス(行政二年法八八八號二七頁)

得可キモノニ非ス(行政三年法九八五號二四一頁)

二 町會議員當選ノ效力ニ關スル町會ノ決定ニ對スル訴願ハ訴願法第二條第一項ニ依リ町會ヲ經由シテ之ヲ提起ス可キモノトス——右訴願ニシテ町會ヲ經由セスシテ提起セラレタルトキハ訴願法第九條第一項ニ依リ却下セラル可キモノトス(行政二年法九六一號九六頁)

◎訴願手續ノ怠慢

訴願書ノ經由ニ當レル町村會ノ議長タル町村長カ町村會ノ議ニ付スルコトナク且其ノ辯明書ヲ添附セスシテ上級行政廳ニ進達シタリトスルモ訴願人カ經由ノ手續ヲ怠リタルモノト謂フヲ得ス(行政三年法九八三號二三〇頁)

第四條 裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

◎更新公賣公告ニ對スル訴願ト本條

村稅滯納處分ニ付爲シタル公賣公告ニ對シ訴願及行政訴訟ヲ提起シタル爲公賣期日ヲ經過シタルニ因リ更ニ期日ヲ定メテ爲シタル

第七條 多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分、職業、住所、年齢ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ  
法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

◎共同訴願ト總代人ノ選任

一 三名ヲ超ユル人員ノ共同訴願ニ在リテハ訴願法第七條第一項ノ規定ニ從ヒ訴願人中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選任シ其總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スルノ手續ヲ履行スヘキモノトス右ノ場合ニ於テ訴願人ニアラサル代理人ヲ選任スルハ右規定ノ條件ニ該當スルモノニ非ス(行政一〇年法一八七八號一九頁)  
二 五名共同シテ訴願スルニ當リ其中三名以下ノ總代人ヲ選ハサリシコト明瞭ナル場合ニ於テハ其訴願ハ適法ノ手續ニ違背スルモノトス(行政六年法一三四七號三二頁)  
三 訴願法第七條第一項ニ依リ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ其ノ委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘキコトハ多數ノ人員カ共同シテ訴願スル場合ニ於テ爲スヘキ必要ナル手續ニシテ單ニ訴願書ノ



方式ニ止マラサルモノナルコトハ當裁判所ニ於テ先例ノ存スル所ナリ而シテ訴願法第九條ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ訴願書ノ方式ヲ欠クニ止マラサルモノノ外凡テ之ヲ却下スヘキ旨ヲ定メ其ノ手續ノ輕重大小ヲ同ハサルカ故ニ原告主張ノ如ク總代ノ委任及證明ノ欠缺ヲ以テ輕微ナル手續ノ過誤ナリトスルモ爲ニ其ノ訴願ヲ却下スヘキモノニ非スト爲スヘキニ非ス(行政一一年法一九八三號二二頁)

四 多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其ノ中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ビ之ニ委任シ其ノ總代委任ノ正當ナルコトヲ證スヘキハ訴願法第七條第一項ノ規定スル所ニシテ其ノ處分カ多數人ニ對シ各別ニ爲サレタルモノタルト又ハ一個ノモノタルヲ區別スヘキ根據ナク又訴願法第七條第一項ノ規定ハ單ニ訴願書ノ方式ニ關スルモノニ非スシテ其ノ手續ニ關スルモノタルハ屢列示セル所ナリ而シテ本件ニ於テ訴願人中ヨリ總代人ヲ選任セザリシコトハ爭ナキ所ナルヲ以テ被告カ訴願法第九條第一項ノ規定ニ依リ却下ヲ爲シタルハ適法ナリ(行政一二年法二一五號二二頁)

第八條 行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス  
行政處分ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過

ヲ受理裁決スルモ不法ナリト云フヲ得ス(行政四二年法五八一號一七頁)

◎同旨判例(行政一三年法二三五九號二〇頁)

三 訴願期限ノ經過ニ宥恕スヘキ事由アリヤ否ヤノ認定ハ行政處分ノ職權ニ屬スルモ訴願人ヨリ事由ヲ具シテ宥恕ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テハ行政處分ハ其事實ヲ調査スヘキハ勿論宥恕スヘキ事由アリト認メタル以上當然其ノ訴願ヲ受理スヘキ者ナルコトハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ設ケタルノ趣旨ニ徴シテ明ナリ(行政元年法八四三號二五頁)

四 訴願法第八條第三項ノ宥恕スヘキ事由アリヤ否ヤニ關スル下級行政處分ノ認定ノ當否ハ上級行政處分ニ於テ之ヲ審査シ相當ノ處分ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ縣參事會ニ於テ其ノ裁決書ニ明ナルカ如ク宥恕スヘキ事由アルモノトシ受理スルヲ相當ト認メタル以上村長ノ却下處分及之ヲ是認シタル郡參事會ノ裁決ハ之ヲ取消シ訴願ノ本案ニ付裁決ヲ爲スヘキモノナルニ宥恕スヘキ事由アリトスルト否トハ一ニ村長ノ職權ニ屬シ縣參事會ニ於テ其ノ當否ヲ審査シ得サルモノナリト爲シ村長ノ處分及郡參事會ノ裁決ヲ是認シタルハ違法タルヲ免レンス(行政元年法八四三號二五頁)

◎日附ノ記載ナキ裁決書ノ效力

訴願法ニハ訴願ノ裁決書ニ日附ヲ記載スヘキ趣旨ノ規定ナキノミナラス裁決ノ日附ハ行政訴訟提起期間ノ計算ニ何等ノ關係ナキヲ

シタルモノハ更ニ上級行政處分ニ訴願スルコトヲ得ス  
行政處分ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

◎訴願期間ノ起算點

- 一 稅務署長ノ滯納處分ニ對スル訴願ノ期間ハ訴願法第八條第一項ニ依リ處分ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス(行政四〇年法四八五號一四頁)
- 二 訴願期間ハ差押ノ處分ニ就テ之レヲ見ルトキハ滯納者カ現場ニ立會ヒ直接ニ處分ヲ受ケタル場合ハ其當日ヨリ起算スヘキハ素日ヨリ明カナリト雖モ被處分ノ當日不在ニシテ全ク差押ノ事實ヲ知ラサル場合ハ現實ニ其差押調査ヲ受領シタル當日ヲ以テ起算日ト爲スヲ相當トス(行政四五年法八一七號二五頁)

◎訴願提起期間ノ宥恕

- 一 訴願法第八條第三項ニヨリ宥恕スヘキ事由アリヤ否ヤノ認定ハ訴願裁決處ノ職權ニ屬ス(行政六年法一三三五號三一頁)
- 二 訴願法第八條ニ依レハ其期限ヲ宥恕スルト否トハ行政處分ノ職權ニ屬スルヲ以テ行政處分カ宥恕スヘキモノトシテ期限經過後ニ訴願

以テ日附ノ記載ハ之ヲ裁決書ノ形式的要件ナリト云フヲ得ス從テ本件裁決書ニ日附ノ記載ナキモ其ノ裁決ハ違法ニ非ス(行政一四年評論一四卷諸法二二二頁)

第九條 法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス  
其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

◎總代人不選任ノ共同訴願ノ却下

第七條「共同訴願ト總代人ノ選任」參看

第十三條 訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政處分ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

◎訴願ト其趣旨

訴願ノ趣旨ハ訴願書全體ヨリ觀テ之ヲ定ムヘキナリ(行政七年法



### 相續税法

第五條 條件附權利、存續期間ノ不確定ナル權利又ハ訴訟中ノ權利ニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス

第三條ニ依リ控除スヘキ債務金額ハ政府カ確實ト認メタルモノニ限ル

### ◎時効ニ罹リタル債務ト本條第二項

相續開始前ニ消滅時効完成シタル債務ハ相續税法第五條第二項ニ所謂確實ナル債務ナリト爲スコトヲ得ス(行政三年法九六四號一六一頁)

第八條 相續税ハ課税價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

### ◎虛偽賣買ノ物件ニ對スル課税決定

稅務署長カ相續稅課稅價格ヲ決定スルニ方リ被相續人カ相手方ト通シテ爲シタル虛偽ノ賣買ニ因リ其ノ所有名義ト爲シタル財產ナルコトヲ知ラスシテ其ノ財產ヲ相續財產ナリト認メタルトキハ其ノ認定ハ失當ニ非ス(行政三年法九六四號一六一頁)

第十六條 課稅價格ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

### ◎本條ノ課稅價格決定ノ意義

相續税法第十六條ニ所謂課稅價格ノ決定トハ第十三條ノ決定ヲ指スニ非スシテ政府カ審査委員會ノ諮問ヲ經テ爲ス第十五條ノ決定ノミヲ指稱スルモノトス(行政七年法一四二六號二四頁)

### ◎本條ト行政裁判法第十七條トノ關係

相續税法第十六條ハ課稅價格ノ決定ニ對シ不服アルモノハ訴訟又ハ行政訴訟ノ一ヲ選擇スルヲ得ルコトヲ規定シタルニ過キスシテ行政裁判法第十七條ニ所謂特別ノ規程トシテ見ルヘキニアラス

### ◎選定相續人及家族タル直系卑屬

- 一 民法第九百八十五條第一項ニ依リ家督相續人ニ選定セラレタル者ハ被相續人ノ家族ニシテ且直系卑屬ナルトキト雖相續法第八條ニ所謂相續人カ民法第九百八十五條ニ依リ選定セラレタル者ナルトキニ該當スルモノナリトス(行政五年法一一九八號三〇頁)
- 二 相續税法第八條ニ所謂相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキトハ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルコトニ因リ當然ニ家督相續人ト爲リタル者ヲ指スモノトス(同上)

第十三條 課稅價格ハ政府之ヲ決定ス

課稅價格ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ相續人遺言執行者又ハ相續財產管理人ニ通知スヘシ

### ◎課稅價格決定ノ目的

相續税法第十三條ノ課稅價格ノ決定ヲ以テ政府ハ相續稅納稅義務ノ存スルコト及納稅義務ノ範圍タル課稅價格ノ員數幾何ナルコトノ決定ヲ爲スモノトス(行政七年法一四二六號二四頁)

(行政四一年法五五六號一八頁)

### 煙草專賣法

(明治三十七年法律第十四號)

第三條 煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ耕作スルコトヲ得ス

### ◎煙草ノ耕作ヲ爲シ得ル者

煙草ノ耕作權ハ政府ヨリ其許可ヲ受ケタル者自身若クハ相續人或ハ其承繼ニ付キ特ニ政府ノ許可ヲ得タル者ニ非サレハ之ヲ有セサルモノトス從テ許可ヲ受ケサル者カ煙草ヲ耕作スルニ於テハ縱令耕作權者ノ許諾ヲ得タリトスルモ煙草專賣法第四十一條ノ二ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス(大審四一年刑一〇一九頁)

### ◎煙草ノ無許可耕作ト其ノ罰條

甲ハ私ニ煙草ヲ耕作シテ自己ノ喫料ヲ得ント欲シ政府ノ許可ヲ受ケスシテ私ニ煙草苗ヲ育成シタルモ老年者ニシテ之ヲ山畑ニ移植



耕作スルハ容易ナラサルヲ以テ同居者ナル乙ニ移植耕作ヲ命ジタリ乙ハ甲ノ命ニ依リ始メテ犯意ヲ起シ甲カ拔除シ來レル苗ヲ受取リ之ヲ自家所有ノ山畑ニ移植耕作シ其成熟ヲ待ツテ葉煙草(生葉)ヲ採取シ之ヲ甲ニ交付シタリ甲ハ其ノ葉ヲ受領シ之ヲ居宅内ニ乾燥ノ上葉煙草五百匁ヲ得其全部ヲ自己ノ喫料ニ消費シタル場合ニ於テハ甲乙ハ煙草專賣法第三條ノ罪ノ共謀正犯タリ甲ノ煙草苗ノ育成ハ程度ノ進ミタル耕作行為ノ中ニ包含セラレタルヲ以テ同第三條ノ罪ノ外ニ同第九條ノ罪ヲ成スモノニ非ス(但乙ノ行為ニシテ同法第六十五條ニ該當スル事實ナルニ於テハ乙ノ行為ハ罪ト爲ラス)甲乙ハ共ニ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ同第四十二條ノ耕作者ニ該當セス同第五十六條ハ無許可耕作者以外ノ者ニ適用スヘキ法條ニシテ無許可耕作者ニ適用スヘキ法條ニ非ス(法曹會決議八年二九卷四號二二頁)

第八條 相續ニ因ルノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受ケヘシ  
相續ニ因リ煙草ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ政府ニ届出ヘシ

◎煙草ノ耕作ヲ爲シ得ル者(第三條)

第二十二條 製造煙草ハ政府又ハ政府ノ指定シタル煙草元賣捌人若ハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス  
煙草元賣捌人及煙草ノ販賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

- ◎煙草元賣捌人ト小賣人トノ區別(第四九條)
- ◎本條違犯罪ノ成立(第二三條)
- ◎無免許煙草賣捌ノ從犯(第四九條)

◎專賣法ノ罰金不能ト舊刑法ノ總則

刑法六頁「本條ヲ適用セサル場合」參看

◎煙草專賣法ニ所謂販賣ノ意義

煙草專賣法第二十二條第一項同第四十九條ニ所謂販賣トハ不定多衆ニ對シテ賣渡ス行為ヲ汎稱ス而シテ法人タル購買組合ノ組合員ハ時々増減アリテ必スシモ一定ノ員數ニ制限セラレルモノニ非サルノミナラス組合力購買セル物ハ必スシモ組合員ノ一定數ニ限リ賣渡サルコトナク汎ク其組合員中ノ需用者ニ賣渡サルヘキモノナレハ購買組合員ヲ以テ不定多衆ト謂フヲ妨ケサルモノトス(大審八年刑一三七九頁)

◎購買組合ノ煙草專賣法違犯

一 購買組合ハ産業組合法第一條第三號ニ依リ産業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シ之ニ加工セシテ之ヲ組合員ニ賣却スルコトヲ目的トスル社團法人ナルヲ以テ政府ノ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ組合員ニ賣却セントセハ煙草小賣人タル指定ヲ受ケサルヘカラス之ニ反シテ若シ煙草小賣人タルノ指定ヲ受ケスシテ政府ノ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ組合員ニ賣却シタルトキハ煙草專賣法第二十二條第一項ニ違背スルモノトス(大審四五年刑五九六頁)

二 煙草專賣法ニ所謂販賣ノ意義(前項)

◎匿名契約者ノ煙草販賣行為

産業組合ヲ資本主トシテ同組合ニ最モ有利ナル内容ヲ有セル匿名組合契約ヲ爲シタル上自己ノ營業トスル意思ヲ以テ煙草小賣人ノ指定ヲ受ケ而カモ自己ニ其營業所ヲ設置シテ自ラ煙草賣捌人ヨリ自己名義ニテ買受ケ且自宅營業所ニ於テ組合及組合以外ノ消費者ニ之ヲ販賣シ其利益金ノ三分ノ一ニ相當スルモノヲ營業主ニ報酬トシテ取得シタル所爲ハ煙草專賣法第二十二條所定ノ犯罪ヲ構成セサルモノトス

第二十三條 煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニ非サレハ

諸法令 (タ) 煙草專賣法

二三條

製造煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

- ◎專賣ノ鹽又ハ煙草ハ差押ヘ得ルヤ(民法四七三頁)
- ◎右同旨判例(大村區一三年法二二八一號一八頁)
- ◎專賣ノ鹽又ハ煙草ト競賣價格(民法四七七頁)
- ◎無免許煙草賣捌ノ從犯(第四九條)

◎本條ニ所謂消費者ノ範圍

◎本條違犯罪ノ成立

煙草專賣法第二十三條ニ所謂消費者トハ自己ノ需用ニ供スル爲メ煙草ヲ買受ケル者ノミナラス縱令ヒ轉賣ニ依リ利益ヲ取得スルノ目的ヲ以テ之ヲ買ヒ受ケル者ト雖モ法令ニ基キ煙草賣捌人タル資格ヲ有セサル者ハ總テ之ニ包含セシメタルモノト解スヘキ至當トス故ニ煙草ノ買受者ニシテ煙草賣捌人以外ノ者ナル以上ハ其買受ノ目的カ自己ノ需用ニアルト將タ轉賣ニアルトナ問ハス之ニ對シ政府ノ定メタル價格以外ノ代金ヲ以テ煙草ヲ賣渡シタル煙草小賣人ノ所爲ハ同法第二十三條ニ違背スルモノトシ同法第五十條ニ從ヒ處斷スヘキモノニシテ同法第二十二條第四十九條ニ從ヒ處斷スヘキモノニアラス(大審四一年刑四八八頁)



第二十四條 煙草賣捌人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裝ヲ開  
披シ若ハ之ヲ改裝シ又ハ包裝ノ破損シタル製造煙草ヲ販賣スルコ  
トヲ得ス

◎本條違犯罪ノ構成

◎煙草包裹ノ開披若ハ改裝ト其處分

一 煙草專賣法第二十四條ハ政府ノ製造ニ係ル煙草ノ信用ヲ確保セ  
ンカ爲メ單ニ政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裝ヲ開披シ若ク  
ハ之ヲ改裝スル行爲ヲ禁止シタルモノニシテ同條末段「販賣」  
ナル語ハ前段「開披シ若クハ之ヲ改裝シ」ノ法文ヲ承ケタルモノ  
ニアラサルコトハ文理解釋上固ニ疑ナキ所ナリ故ニ荷モ開披若ク  
ハ改裝ノ事實アルニ於テハ其煙草ヲ販賣スルニ至ラサルモ茲ニ同  
條ノ罪ハ成立スルモノトス又一旦政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草  
ト雖モ之ヲ其包裹ヨリ分離スルトキハ政府ノ證票ヲ付セサル製造  
煙草タルヲ免レサレハ之カ所持及讓渡ノ事實アルニ於テハ同法第  
三十四條ニ所謂所持及讓渡ノ二罪ヲ構成スルモノノ如シ然レトモ  
前記開披若クハ改裝罪ノ成立シタル場合ニ在テハ政府ノ證票ヲ付  
セサル煙草ヲ所持スルハ開披改裝ニ伴フ必然ノ結果ナルカ故ニ其

タルコトヲ免レス(大審四一年刑一八九頁)

第三十四條

何人ト雖本法ニ於テ認メタル場合ノ外葉煙草、政府ノ證  
票ヲ附セル製造煙草又ハ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シ、  
讓渡シ若ハ讓受ケルコトヲ得ス  
前項ノ物件ハ本法ニ依リ沒收スル場合ノ外政府ニ於テ之ヲ處分ス

◎煙草ノ包裝ノ開披若ハ改裝ト其處分(第二四條)

◎本條ニ所謂製造ノ意義

一 煙草專賣法第三十四條ニ所謂製造トハ葉煙草ヲ以テ吸煙其他實  
用ノ爲メニスル煙草ヲ製造スルコトヲ指稱シ工作ヲ加ヘタル結果  
其煙草カ荷モ實用ニ適スル以上ハ特ニ製造ノ目的ト爲リタルモノ  
ナルト他ノ煙草ヲ製造スルノ際自然ニ生シタルモノナルトハ問フ  
所ニ非ス(大審四一年刑二六六頁)  
二 煙草ノ製造(葉煙草專賣法第十九條ノ五)トハ葉煙草ニ加工シ  
テ製造スルモノノミノ謂ニ非スシテ刻煙草粉煙草等ヲ以テ紙卷煙  
草ヲ製造スルモノヲモ包含ス(大審三四年刑一〇卷七八頁)

◎本條ニ所謂所持ノ意義

諸法令 (タ) 煙草專賣法

三四條

開披改裝ノ煙草ヲ所持スルニ止マラス進ンテ之ヲ讓渡シ更ニ政府  
ノ專賣權ヲ侵害シタル時ニアラサレハ別ニ罪ヲ構成セサルモノト  
ス(大審四一年刑四五頁)

二 賣捌人カ政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裝ヲ開披若クハ改  
裝シテ其一部ヲ販賣シ一部ヲ所持シタル場合ニ於テハ開披改裝ノ  
點ニ付キ煙草專賣法第二十四條、第五十條販賣ノ點ニ付キ第三十  
四條、第五十七條ヲ適用シ賣捌人以外ノ者カ斯ノ如キ行爲ヲ爲シ  
タルトキハ販賣ノ點ノミニ付キ同法第三十四條、第五十七條第四  
十九條刑法第五十四條ヲ適用スヘキモノトス(法曹會決議四四年  
二一卷三號)

第二十七條 輸出ノ爲メ政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ハ輸出  
前ノ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス但シ其ノ使用ニ適セサル  
ニ至リタルモノハ政府ノ許可ヲ受ケテ之ヲ廢棄スルコトヲ得

◎本條ノ解釋

輸出ノ爲メ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケタル者カ其輸出前ノ之ヲ他ニ  
賣却スルニ於テハ縱令其實行爲カ輸出ノ目的ニ出テ又ハ之ヲ條  
件ト爲シタル事實アリトスルモ煙草專賣法第二十七條ノ違犯行爲

本條ニ所謂所持トハ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルトヲ論  
セス同條所定ノ物件ヲ自己ノ監督内ニ置クノ謂ニシテ之レテ所有  
ト同一意義ナリト解スルハ失當ヲ免レヌ故ニ原判決ノ認定スル如  
ク被告カ他人ノ爲メニ本件ノ物件ヲ自宅ニ於テ所持シタル場合ト  
雖モ本條ノ所謂所持ニ該當スルモノトス(大審四二年刑四一〇頁)

◎政府ノ證票ナキ製造煙草ノ讓渡

官製刻煙草又ハ政府ノ證票ヲ附シタル民製刻煙草ヲ改裝シ民製煙  
草ニ貼附シアリタル政府ノ證票ヲ剝取リ之ニ貼附シテ販賣シタル  
所爲ハ其成規ニ違ヒ保證ヲ缺ク點ニ於テ無證票ト同一ニ看做スヘ  
キモノナルヲ以テ政府ノ證票ヲ附セサル製造煙草ヲ讓渡シタル罪  
ヲ構成スルモノトス(大審四三年刑一七七〇頁)

◎讓渡ノ意義

(舊法) 葉煙草專賣法第二十一條第一項ニ「葉煙草ノ讓渡ヲ受ケ  
タルトキ云云」トアル其讓渡ナル語辭ハ廣ク賣買交換其他所有權  
ヲ移轉スヘキ方法ヲ指稱シタルモノトス從テ若シ營利ノ目的ヲ以  
テ葉煙草ヲ買受ケタル者ヲ處罰スヘキ特別ノ規定ナカラニハ該  
犯人ニ對シテモ同條項ノ規定ヲ適用スヘキモノナリト雖モ同法第  
二十一條ノ二該犯人ヲ處罰スヘキ特別ノ規定アル以上ハ該犯人  
ニ對シテハ第二十一條第一項ノ規定ハ之ヲ適用スルヲ得サルモノ



トス(大審三六刑一三五頁)

◎本條ノ不適用

大使館員カ大使館宛ニテ輸入シタル製造煙草ハ現行ノ法規上輸入所持自用ノ許可ヲ受ケタルモノト認ムヘキヲ以テ其資格喪失後尙之ヲ所持スルモ煙草專賣法第三十四條及第五十七條ノ適用ナキモノトス(民刑局長四四年民刑甲第二一號回答)

第三十五條 何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

◎煙草ニ代用スヘキ物品

◎口中香烟「スマル」ト煙草代用品

一 煙草專賣法第三十五條ニ所謂煙草ニ代用スヘキ物品トハ煙草ト同一ノ目的ヲ以テ同一ノ用途ニ供セラルヘキ物ヲ汎稱スルモノトス故ニ荷モ煙草ニ非サル物ニシテ煙草ト同一ノ用法ニ依リ煙草ノ使用ニ對スル慾望ヲ達セシムルニ近ク且主トシテ娛樂ノ目的ニ供

實質カ煙草代用品ナルモ實業トシテ免許ヲ得タル以上ハ之レカ販賣行爲ハ罪トナラス而シテ煙草代用品ヲ販賣スルニ當リ實業トシテ販賣シ得ルモノナリト信シ居タルトキハ行爲ノ違法タル事實ノ認識ナシ居タルモノト云フヲ得ス(神戸區四四年法七三〇號二六頁)

第四十一條 政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草ノ輸入ヲ圖リ若ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ其ノ煙草ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ煙草ヲ沒收ス但シ其ノ罰金額ハ百圓以下トコトヲ得ス前項ノ價格ハ其ノ煙草ノ生産地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他輸入地ニ到着スル迄ノ諸費及輸入税ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

◎本條ニ所謂煙草ノ意義

煙草專賣法第四十一條ノ所謂煙草ニハ商品ニ非サルモノ(航海中自己ノ吸料ニ供シタル殘餘二十本許ノ包裝ヲ施ササル非商品)ヲモ包含ス(大審四二年刑三三七頁)

◎自用煙草ノ携帶上陸ト煙草ノ輸入

諸法令 (夕) 煙草專賣法

四一條

セラルルモノナルニ於テハ之ヲ煙草ト同一ノ目的ヲ以テ同一ノ用途ニ供セラルル物ニシテ法ノ所謂煙草ニ代用スヘキ物品ニ該當スト謂フヘク物質ノ分析上其物カ煙草ト同一ノ成分殊ニ「ニコチン」素ヲ有スルコトハ固ヨリ其要件ニ非ス社會生活上ノ通常觀念ニ依リテ其物ノ使用ニ因リテ煙草ノ使用ニ對スル慾望ヲ達セシムルニ近キモノナルヤ否ヤヲ決スヘキモノトス故ニ「ニコチン」素ヲ含有セサル植物ノ葉ト雖モ之ヲ使用シ他ノ物ト混和シ若クハ混和セサルニ論ナク官ノ專賣煙草ニ類似スル外製チ有スル物ヲ作リ煙草ト同一ノ用法ヲ以テ使用スルコトニ因リ普通ノ煙草喫用者チシテ煙草使用ニ因ルト類似ノ感覺ヲ起シ之ニ依リテ煙草ノ使用ニ對スル慾望ヲ達セシムルニ近キニ於テハ其效能ハ煙草ト全然同一ナラストスルモ主トシテ娛樂ノ用ニ供セラルル以上ハ之ヲ煙草ニ代用スヘキ物品ト謂ハサルヘカラス然ルニ原判決ハ本件口中香烟「スマル」カ煙草ト同一ノ目的ヲ以テ同一ノ用途ニ使用セラルヘキ物ナリヤ否ノ事實ヲ審究スルコトナク單ニ「ニコチン」素ヲ含有セストノ理由ニ依リ直ニ煙草專賣法第三十五條ノ煙草ニ代用スヘキ物品ニ該當セサルモノト列示シ無罪ヲ言渡シタルハ法ノ解釋ヲ誤リタル失當ノ判決タルヲ免レス(大審五刑一六一七頁)

◎賣藥免許品ト煙草代用品

一 煙草ハ其種類如何ヲ問ハス政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケルニ非ズレハ之ヲ輸入スルヲ得ス從テ外國ヨリ渡來シタル旅客カ自用煙草ヲ携帶上陸セントスルトキハ政府ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス(大審四二年刑三三七頁)

二 外國貿易船カ内地開港ニ歸港シ沿海通航船ニ資格變更ノ際其船員カ外國ヨリ持歸リタル製造煙草ヲ稅關官吏ニ提示セス同船内ニ於テ所持シ其儘他ノ港灣ニ入り陸上ニ搬入スルノ意思ナク唯船内消費ノ目的ナリシ場合ニ於テハ密輸入罪ヲ構成セサルモノトス(法務局長四四年刑甲四三九號回答)

◎煙草ノ輸入ト事後ノ行爲トノ關係

政府ノ許可ヲ受ケスシテ外國製煙草ヲ船舶ヨリ陸揚シタル所爲ハ其目的如何ヲ問ハス煙草專賣法第四十一條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ被告カ爾後該煙草ヲ船内ニ持歸リ之ヲ保存スルモ其罪責ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ(大審四一年刑一頁)

第四十八條 政府ニ納付スヘキ葉煙草チ他ニ讓渡シ又ハ消費シ又ハ隱蔽シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ情ヲ知リテ葉煙草隱蔽ノ場所ヲ供與シタル者ハ十圓以上五百圓以下

四八條



◎所謂一厘事件ノ判決

◎葉煙草僅々七分ノ息納ト其ノ罰否

續刑法七一頁「零細ナル反法行爲ト其ノ處分」參看

◎葉煙草ノ讓受及讓渡ト其ノ處分

- 一 政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ自家消費ノ目的ヲ以テ讓受ケタル者其ノ後意思ヲ變シ他ニ讓渡シタル場合ハ葉煙草ノ讓受ト讓渡トノ兩行爲間ニ何等密接ノ因果關係ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ各獨立ノ一罪ヲ構成シ刑法第五十四條第一項後段ヲ適用スヘキモノニアラス(刑事局長二年刑事事甲第四三號回答)
- 二 葉煙草ノ竊取ト其密讓(刑法一二三頁)
- 三 葉煙草竊取ノ結果(刑法一二三頁)

◎本條ノ犯罪ト親族盜トノ關係

煙草專賣法第四十八條ノ犯罪ハ國家ノ煙草專賣權ニ對スル侵害行爲ニシテ強竊盜其他ノ犯罪ノ當然ノ結果ト認ムヘキモノニ非ラサルカ故ニ假令竊取其他ノ犯罪ニ付テハ親族ノ關係アル爲メ不論罪トナルモ同條ノ犯罪ハ獨立シテ存在スルモノトス(民利局長四十

第四十九條 煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ四十以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

◎本條ノ旨趣

煙草賣捌人ニモ非ス又煙草小賣人ニモ非スシテ煙草小賣人及ヒ消費者ニ製造煙草ヲ販賣シタル行爲ハ二個ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非ラスシテ煙草專賣法第四十九條ニ所謂煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シタル一箇ノ犯罪行爲ナリトス從テ之ニ對シ同法條所定ノ一箇ノ刑罰ニ處スルヲ相當トス(大審四四年刑二〇八〇頁)

◎煙草密賣行爲ノ範圍

煙草販賣ノ準備(煙草專賣法第四十九條)ハ其販賣前ニ在テハ犯罪行爲トシテ獨立ノ存在ヲ有スルモ既ニ販賣ヲ爲シタル以上ハ該行爲ヲ包括的ニ觀察シ其全部ニ對シテ販賣罪ノ刑ヲ適用セサルヘカラス(大審四三年刑七七二頁)

◎煙草專賣法第四十九條ノ適用

◎煙草元賣捌人ト小賣人トノ區別

- 一 煙草賣捌規則第一條同第六條ニ依ルハ煙草元賣捌人トハ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ煙草小賣人ニ賣渡ス者ヲ指稱シ煙草小賣人トハ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡ス者ヲ指稱ス而シテ煙草元賣捌人トハ五ニ相兼スルコトヲ得サルカ故ニ煙草專賣法第二十二條ニ「製造煙草ハ政府ノ指定シタル煙草元賣捌人若クハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス」トアルハ煙草元賣捌人ニ非サレハ煙草ヲ煙草小賣人ニ販賣スルコトヲ得ス又煙草小賣人ニ非サレハ煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得サル趣旨ナルコト洵ニ明ナリ從テ煙草元賣捌人ハ消費者ニ對シテハ煙草賣捌人ニ非ス又煙草小賣人ハ其同業者ニ對シテハ煙草賣捌人ニ非サルヲ以テ本件ノ如ク煙草小賣人タル被告ニ於テ煙草ヲ其同業者ニ販賣スルニ於テハ煙草專賣法第四十九條ニ所謂煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シタル者トアルニ該當ス故ニ原院カ煙草專賣法第二十二條及第四十九條ヲ適用シタルハ正當ナリ(大審四四年刑一一九三頁)
- 二 同旨判例(大審四四年刑一五〇一頁、大審三八年刑五八五頁)

◎賣捌人代理名義ノ煙草ノ賣買

製造煙草ヲ賣買スルハ煙草專賣法上特ニ煙草賣捌人トシテ指定セ

◎無免許煙草賣捌ノ從犯

- 一 無免許煙草賣捌ノ從犯(續刑法一九九頁)
- 二 煙草小賣人甲ハ乙カ政府ノ指定ヲ受ケスシテ私ニ煙草ヲ販賣スルノ情ヲ知り政府ノ定メタル價格ニ依ラス割引シテ製造煙草ヲ乙ニ賣渡シ以テ乙ノ無指定販賣行爲ヲ幫助シタル場合ハ甲ハ煙草專賣法第二十三條ノ適用ヲ受ケルト共ニ從犯トシテ同法第四十九條ノ適用ヲ受ケヘキモノタリ但法條競合ノ場合タルニ付刑法第五十四條ニ據リ擇一シテ同法第四十九條ノ處分ヲ爲スヘキモノトス(法曹會決議八年記事二九卷五號三八頁)

◎本條ニ依ル煙草ノ沒收

續刑法四六頁「共同被告ニ對スル沒收ノ言渡」ノ六參看

第六十一條 本法ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニシテ他ニ所有者アル爲沒收スルコトヲ得サルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス



◎本條ニ依ル追徴處分

- 一 煙草專賣法第六十一條ニ據ル追徴處分ハ共犯者アル場合ニハ其全體ヨリ共同ノ關係ニ於テ之カ讓渡金ノ全部ヲ追徴スヘキモノトス(大審四三年刑一七七〇頁)
- 二 煙草專賣法第六十一條ノ追徴ハ犯人ノ手ヨリ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收スルコトヲ得サル場合ニ於テ沒收ニ代ヘ其價格ニ相當スル金額ヲ完納セシムル爲メ言渡スモノニシテ其目的ハ主トシテ犯罪ニ係ル煙草ニ付犯人ヲシテ其利益ヲ得セシメサルニ在ルモノナレハ最後ノ讓受人タル犯人ノ手ヨリ沒收スルコトヲ得ルト否トニ依リ其適用ヲ異ニスルノ理ナシ若シ夫レ最後ノ讓受人タル犯人ノ手ヨリ煙草ヲ沒收スルコトヲ得ルノ故ヲ以テ其他ノ犯人カ追徴ノ言渡ヲ免ルルモノトセハ現ニ之ヲ所持シタル犯人ノミ其利益ヲ失ヒ其他ノ犯人ニ於テハ其利益ヲ取得スルコトヲナリテ追徴ノ規定ヲ設ケタル立法ノ趣旨ヲ沒却スルニ至ル可シ是故ニ本件ノ如ク犯罪ニ係ル煙草カ實買ニ依リ他ニ轉賣シ尙ホ且ツ最後ノ買受人タル犯人ノ手ヨリ之ヲ沒收スルコトヲ得タリトスルモ沒收ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ除キ其他ノ各犯人ニ對シ其價格ヲ追徴スルハ當然ノコトトス(大審四一年刑一九三頁)
- 三 荷モ煙草專賣法違犯ノ行爲ニ干與シタル者ハ正犯タルト從犯タルトヲ論セス又犯罪ニ係ル物件ノ所有者ナルト否トヲ問ハス之ヲシテ沒收スルコトヲ得サル物件ノ價格ニ相當スル金額ニ付キ追徴

ヲ受ケシムヘキモノトス(大審元年刑一四八四頁)

四 共犯者中ノ一人ニ對シ不起訴其他ノ理由ニ依リ其罪ヲ問ハサル場合ニ於ケル煙草專賣法第六十一條ノ追徴金ハ處罰セラレタル者ヨリ其全部ヲ沒收スルコトヲ得ルモノトス(刑事局長二年刑事甲第二〇號回答)

第六十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪併發ノ例ヲ用キス

◎窃取セル刻煙草ノ所持ト刑法第五四條

煙草專賣法第六十四條ハ刑法第五十四條ヲ適用セサル趣意ノ規定ニアラサルカ故ニ政府ノ證票ヲ付セサル竊取刻煙草ノ所持ハ竊盜ノ結果ニ外ナラサレハ刑法第五十四條ニ依リ重キ竊盜罪ノミヲ以テ處斷スヘキモノトス(民刑局長四十一年甲第三一二號回答)

◎本法違犯ノ從犯ノ減輕

專賣法ニ所謂刑法ノ減輕ヲ行フニハ從犯減輕ヲモ包含スルモノトス(民刑局長四四年民刑甲第一八號回答)

第六十五條 煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造專用ノ器具、機械及卷紙ノ製作者、販賣者、販賣者又ハ煙草輸出者、其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

◎從業者ノ行爲ト賣捌人ノ罪責

一 煙草專賣法第六十五條ニ依レハ煙草耕作者試作者煙草賣捌人等ヲシテ其代理人戶主家族同居者雇人其他ノ從業者カ爲シタル犯法行爲ニ付キ其罪責ヲ負ハシムルニハ是等ノ者カ其業務ニ關シ煙草專賣法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルコトヲ要スルノミニシテ右法律命令中煙草耕作者試作者煙草賣捌人等ヲ以テ犯罪ノ主體ト爲シタル條項ニ違反シタルコトヲ以テ其要件トセサルコトハ夙ニ本院ノ判例トシテ認ムル所ナリ(明治四十一年(れ)第六七一號事件本院判決參照)故ニ煙草專賣法第二十二條ノ規定ニ違反スル行爲ヲ同法第四十九條ニ依リ處罰スルハ固ヨリ煙草賣捌人タル資格ニ基キ爲シタル行爲ノ制裁ニアラサルハ論テ俟タスト雖モ煙草元賣捌人タルト煙草小賣人タルトヲ問ハス荷モ煙草賣捌

第八十二條 本法施行ノ際現在スル製造煙草又ハ刻煙草製造業者ノ

人タル者ノ業務ヲ執行スルニ當リ其從業者ニ於テ煙草販賣ニ關スル同法第二十二條違犯ノ行爲ヲ爲スカ如キハ即チ煙草賣捌人ノ從業者カ其業務ニ關シ同法ニ違反シタルモノニ外ナラサルヲ以テ同法第六十五條ニ依リ煙草賣捌人ハ同法第二十二條第四十九條ノ罪責ヲ辭スルヲ得ス(大審四四年刑一七四一頁)

二 煙草專賣法第六十五條ニ依レハ煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人等ヲシテ其代理人、戶主、家族、同居者、雇人其他ノ從業者カ爲シタル犯法行爲ニ付キ其罪責ヲ負ハシムルニハ是等ノ者カ其業務ニ關シ煙草專賣法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルコトヲ要スルノミニシテ右法律命令中煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人等ヲ以テ犯罪ノ主體ト爲シタル條項ニ違反シタルコトヲ以テ其要件トセテ而シテ其代理人、戶主、家族、同居者、雇人其他ノ從業者ノナシタル犯法行爲カ煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人等ノ業務ニ關スルヤ否ヤチ定ムルハ一ノ事實問題ニ外ナラサルヲ以テ荷クモ是等ノ者カ煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人等ノ業務ニ關シ前記法律命令ニ違反シタル事實アリト認メラレタル以上ハ煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人等ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其罪責ヲ免ルルヲ得サルモノトス(大審四一年刑七九五頁)



治三十八年三月三十一日迄ニ製造シタル刻煙草ハ本法ノ規定ニ依ラ  
ス之ヲ所持シ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得  
政府ハ必要ト認メタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造煙草  
ニ包裝ヲ施サシメ一定ノ證票ヲ貼附セシムルコトヲ得  
前項ニ依ル命令ニ違反シ包裝ヲ施サス又ハ證票ヲ貼附セサル製造煙  
草ニ關シテハ第三十四條及第五十七條ヲ準用ス

◎本條第三項ノ適用

煙草專賣法第八十二條第三項ノ規定ハ其第二項ノ命令ヲ遵守セサ  
リシ場合ニ於テ適用スヘキモノニシテ已ニ政府ノ命令ニ因リ包裝  
ヲ施シ證票ヲ付セル以上ハ民製タルト政府製造煙草タルト同ハ  
ス同法第二十四條ノ犯罪ヲ構成スルコト勿論ナルヲ以テ同第五十  
條同第三十四條第一項同五十七條ヲ適用シ處分スヘキモノトス  
(大審四三年法六七二號一八頁)

煙草賣捌規則

◎煙草元賣捌人ト小賣ハトノ區別(煙草專賣法第四九條)

◎賣捌人指定ノ申請ト販賣署長ノ職責

煙草賣捌人タラントスル者ハ煙草賣捌規則第二條ニ依リ專賣局長  
宛其指定ヲ申請スヘク又同法第三十一條ニ依リ關係煙草販賣官署  
ヲ經由スヘキモノトセルハ專賣局長官ヲシテ申請ノ許否ヲ決スル  
資料ヲ得セシメントスル旨趣ニ外ナラサルカ故ニ販賣官署長ハ別  
段ノ規定ヲ缺タス該申請ニ付キ否ノ意見ヲ付シ之ヲ專賣局長官  
ニ進達スヘキ職責ヲ有スルモノト解セサルヘカラス(大審二年刑  
六二二頁)

兌換銀行券條例

第十二條 兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ  
照シテ處斷ス

◎兌換銀行券條例第十二條ノ廢止(刑法五一頁)

大正元年勅令第十九號

◎諸法令上卷一七頁「休日ニ關スル件」參看

大正元年勅令第二十三號

◎諸法令上卷七九頁「恩赦令」ニ掲ケル問題參看

◎懲罰ノ免除ト退隱料トノ關係

大正元年勅令第二十三號恩赦令第十一條ニハ刑ノ言渡ニ基ク既成  
ノ效果ハ大赦、特赦、減刑又ハ復権ニ因リ變更セララルコトナシ  
トアリ又同年勅令第三十號懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件第三項  
ニハ懲戒又ハ懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セララルコ  
トナシトアリ即チ刑ノ言渡ニ基キ又ハ懲戒若クハ懲罰ヲ原因トシ  
テ退隱料ヲ受ケサルニ至リタルトキハ爾後大赦、特赦、減刑若ク  
ハ復権又ハ懲罰ノ免除ヲ受ケタリトスルモ退隱料ヲ受ケサルニ至  
リタル狀態ハ依然トシテ繼續シ之ニ變更スルコトナク一度失ヒタ  
ル資格ハ永久ニ回復スルモノニアラス(法曹會決議一五年四卷一  
二號九六頁)

大正二年司法省令第二十二號

諸法令 (夕) 大正元年勅令第二十三號 大正二年司法省令第三十三號

◎檢事呼出人ノ日當費用ノ支給

一 大正二年九月司法省令第三十三號ニ依リ犯罪捜査ニ關シ檢事ノ  
呼出シタル者ニ對スル日當其他ノ支給方ニ付テハ刑法施行法第六  
十五條ヲ準用シ起訴不起訴ノ決定以前ニ呼出シタル者ニ付テハ其  
決定前ニ請求アリタル場合ニ限り又起訴不起訴ノ決定後ニ呼出シ  
タル者ニ付テハ取調終了ノ即日(若シ請求シ得サル事情存スルト  
キハ其翌日)請求アリタル場合ニ限り支給スヘキモノニシテ會計  
法第十八條ニ依ルヘキモノニ非ス(法務局長回答、二年刑乙一八  
二四號)

二 前項ノ省令ニ依ル日當其他ノ支給ハ證人鑑定人通事ニ準スヘキ  
者ニ爲スヘキモノナルカ故ニ被告ノ人ニ準スヘキ犯罪嫌疑者ニハ之  
ヲ支給スヘキモノニ非ス(同上)

大正元年農商務省令第五號

◎大林區署長ト國ノ代表

私訴ハ其性質民事訴訟ニシテ唯便宜上公訴ニ附帶スルコトヲ得セ  
シメタルノミナラハ之カ爲メニ其性質ヲ變更スヘキモノニ非ス故  
ニ國ハ私訴ヲ提起シ得ルノミナラス其代表者タル大林區署長ハ農



諸法令 (タ) 大正三年靜岡縣令第四十四號 大正六年大藏省令第二十六號 一〇四八  
商務省令第五號ニ依リ國ヲ代表シ得ルモノトス (大審二年刑一六九頁)

### 大正二年靜岡縣令第四十四號

◎大正二年靜岡縣令第四十四號ノ解釋 (諸法令上卷五〇八頁)

### 大正三年勅令第四百號

第一條 大正三年四月十一日前刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ執行前ニ係ルモノ、刑ノ執行猶豫中執行中若ハ執行停止中ノモノ又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ通ルル者ハ此ノ限ニ在ラス

### ◎本條ニ所謂執行停止中ノ意義

大正三年勅令第四百號第一條第一號ニ執行停止中ノモノトアルハ刑事訴訟法第三百九條所定ノ場合ニ該當シ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止セルモノヲ謂フモノトス故ニ控訴中ノ者ハ右ノ者ニ該當セサルヲ以テ前掲勅令ニ因リ當然減輕セラルヘキモノニ非ス (大審三年刑一六九二頁)

但シ外國ニ旅行スル者金貨幣百圓未満ヲ携帯スル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ規定ニ違反スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

### ◎本令第二項ノ罪ノ成立要件

大正六年大藏省令第二十八號第二項ノ犯罪ノ成立スルニハ同年大藏省告示第五百一號所定ノ手續ニ依リ大藏大臣ノ許可ヲ受ケスシテ帝國政府發行ノ金貨又ハ金地金ヲ輸出シ若クハ輸出ノ實行ニ著手スルノ行爲アルコトヲ要スルモノトス (大審八年刑一九三頁)

### ◎金貨幣及金地金ノ意義

大正六年大藏省令第二十八號ニ所謂金貨幣トハ帝國官府力貨幣法ニ則リ發行シタル金貨幣ノ義ニシテ內國ニ流通スル外國金貨幣ハ之ニ包含セサルモノト解ス可ク又該省令ニ所謂金地金トハ金塊金片又ハ金延棒ノ如キ何等技工ヲ施ササルモノハ勿論外國金貨幣ノ如ク通貨トシテ一定ノ形式ヲ具ヘタル貴金屬モ亦之ニ包含セル法意ナリト解ス可キコトハ右省令發布ノ旨趣ニ照ラシ之ヲ肯定スルニ難カラス所揭大正七年大藏省令第三十八號ハ汎ク金銀製品若クハ金銀合金ノ輸出ヲ禁止スル旨趣ニ基キ發布セラレタルモノニ外

諸法令 (タ) 大正六年大藏省令第二十八號

大正七年大阪府令第六十一號

一〇四九

### 大正四年勅令第十一號

### ◎大正四年勅令第十一號ノ旨趣

大正四年勅令第十一號ハ「本令公布ノ際衆議院議員選舉法ニ依リ選舉人名簿確定セル當時現ニ其名簿ニ登錄セラレ同法第八條第三號ノ要件ヲ具備シタル者ハ其後該要件ヲ缺クニ至ルモ該名簿ニ依リ行フ選舉ニ限リ選舉權ヲ失ハサル旨」ヲ定メタルモノニシテ其要件欠缺ノ原因如何ハ之ヲ問ハサルモノトス (大審四年民一九八九頁)

### 大正四年勅令第六十一號

諸法令上卷一七四頁「休日ニ關スル件」參看

### 大正六年大藏省令第二十六號

諸法令上卷三一八頁「銀貨幣銀地金輸出取締令」參看

### 大正六年大藏省令第二十八號

金貨幣又ハ金地金ヲ輸出セムトスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケハシ

ナラサレハ前示省令ノ補助的規定ト認ムルヲ得サルヲ以テ如上省令ノ第二十八號カ外國金貨幣ノ如ク技巧ヲ施シタルモノヲ金地金ト認メサリシトノ論據ト爲スニ足ラス (大審八年刑六一頁)

### ◎水路ニ依ル輸出ノ完成時期

輸出トハ貨物ヲ帝國領土外ニ移出スルノ謂ニシテ水路ニ依ル輸出ハ之ヲ帝國領土外ニ輸出スルカ爲メニ帝國領土外ニ仕向ケラレタル船舶ニ積載スルニ依リテ完成シ其貨物ノ仕向地ニ到着スルト否トニ關係ナキモノトス (大審八年刑一九八頁)

### ◎本條ニ所謂輸出ノ意義 (次頁)

### 大正六年農商務省令第二十號

本卷「タ」ノ部「大正十二年勅令第四百五號」參看

### 大正七年大藏省令第三十八號

◎大正六年大藏省令第二十八號中參看

### 大正七年大阪府令第六十一號

◎諸法令上卷一二七頁「貸家案内營業取締規則」參看

諸法令 (タ) 大正六年大藏省令第二十八號

大正七年大阪府令第六十一號

一〇四九



### 大正九年內務省令第四十一號

第二條 「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ヲ輸出又ハ移出セントスル者ハ左記各號ノ事項ヲ具シ且荷受人カ其ノ輸入又ハ移入ニ付輸入地又ハ移入地當該官憲ノ許可ヲ受ケタルモノナルコトノ證明ヲ添ハ業務所所在地地方長官ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受ケヘシ(以下略)

#### ◎本條ニ所謂輸出ノ意義

「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル內務省令ニ所謂輸出ノ行爲ハ(同省令カ特種藥品ヲ取締ルノ精神ニ基キ制定セラレタル點ニ鑑ミ)海上ニ在リテハ帝國領土外ニ仕向ケラレタル船艦ニ目的物ヲ積載セルニ依リテ完成スルモノトス(大審一五年刑四〇四頁)

#### ◎水路ニ依ル輸出ノ完成時期(前頁)

第十二條第一號 本令ノ規定ハ左記各號ニ據ケルモノニ之ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ハ藥劑師其ノ調劑用トシテ製造スル藥劑ニ付テハ此

ノ限ニ在ラス

一 「デアセチールモルヒネ」、「エチールモルヒネ」、「コカイン」、「エクゴニン」及其ノ鹽類

#### ◎本條ト藥局方ノ磷酸「コデイン」

「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル內務省令第十二條ニ所謂「コデイン」ハ「コデイン」ヲ包含スル一切ノ藥品ヲ總稱シタルモノニシテ日本藥局方ニ所謂磷酸「コデイン」モ亦其ノ一ニ居ルモノト解スヘモノトス(大審一三年刑七三頁)

### 大正十一年勅令第四百七十九號

第二條第一項 文官若ハ官吏ノ待遇ヲ受ケル者又ハ憲兵補ニシテ今回ノ行政整理又ハ軍備ノ制限若ハ整理ニ際シ退官退職シ又ハ休職ヲ命ゼラルル者ニハ特別ノ賜金ヲ支給スルコトヲ得

囑託員、雇員、傭人又ハ職工大正十一年勅令第四百二十八號ノ適用ヲ受ケル職工ヲ除ク)ニシテ今回ノ行政整理又ハ軍備ノ制限若ハ整

理ニ際シ解職又ハ解備セララルル者ニハ特別ノ手當ヲ支給スルコトヲ得

.....

#### ◎退職賜金ノ請求權ト強制執行ノ目的

- 一 大正十一年勅令第四百七十九號ニ依ル退職賜金ヲ受ケル權利ハ強制執行ノ目的タルコトヲ得サルモノトス(大審一五年民六五九頁)
- 二 大正十一年勅令第四百七十九號ニ依ル退職賜金ハ一般行政整理ニ當リ退職セシメラレタル官吏又ハ官吏待遇者ニ限リ從來ノ勤務ニ報ヒ退職ニ依リ直ニ脅威ヲ受ケ可キ一時ノ生活資料ニ充ツル爲特ニ下賜セララルモノナレハ其ノ賜金ヲ受ケル權利ハ他ニ之ヲ讓渡スルコトヲ許ササル性質ノモノナリト解スルヲ妥當トス(當院大正四年(オ)第三百二十一號同年十二月二日第二民事部判決續民法一〇一九頁「年金ヲ目的トスル法律行爲ノ效力」ノ二參照(大審一五年民六六二頁))
- ◎軍人ノ一時賜金又ハ手當金ノ差押(民訴法五二二頁)
- ◎海軍定期職工滿期賜金ノ差押(民訴法五二二頁)

#### ◎本卷七二三頁「支拂延期令」參看

### 大正十二年勅令第四百四號

### 大正十二年第四百五號

震災ニ際シ暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ生活必需品ノ買占者ハ賣情ヲ爲シ又ハ不當ノ價格ニテ其ノ販賣ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 同年農商務省令第一號

大正十二年九月七日勅令第四百五號生活必需品ニ關スル暴利取締ノ件ニ依リ生活必需品ノ品目ヲ左ノ通り指定ス

三 薪、炭、油其ノ他ノ燃料及照明用品

#### ◎本令ノ違反者タルヘキ者

大正十二年勅令第四百五號ノ違反行爲者タルニハ震災ニ際シ暴利



ヲ得ル目的ヲ以テ生活必需品ニ付買占若ハ賣惜ヲ爲シ又ハ不當ノ價格ニテ其ノ販賣ヲ爲シタルヲ以テ足り營業者ナルト又其ノ家族若ハ使用人ナルトヲ問フコトナシ(大審一三年刑六一二頁)

◎本勅令ニ所謂暴利ノ意義

不時ノ變災ニ際シ他人カ生活必需品ヲ買受クルニ付價格ノ多少ヲ論スルニ違アラサル究迫ノ境遇ニ在ルニ乘シ平常ノ一般取引價格以上ナルコトハ勿論天災ノ場合ニ於ケル取引價格ニ比シテ仍ホ高價ト認ムヘキ價格ニテ販賣スルハ大正十二年勅令第四百五號ノ違反ナリトス(大審一三年刑六一二頁)

◎本令ノ違反行爲ト犯意

◎續刑法一〇一頁「法令發布ノ不知ノ犯意トノ關係」參看

◎本令ノ違反行爲ト犯罪ノ責任者

一 大正十二年九月七日勅令第四百五號ハ曠古ノ大震災ニ際シ需給關係ノ變調ヲ奇貨トシ各種不穩當ナル手段ニ依リ國民生活ノ必需品ニ對シ市價ノ激變ヲ誘致シ因テ以テ暴利ヲ網セントスル者ヲ取締ラントスルコトヲ目的トスルニ在レハ同號ニ生活必需品ノ買占若クハ賣惜ヲ爲シ又ハ其ノ販賣ヲ爲シタル者トハ震災ニ際シ暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ事實上是等ノ行爲ヲ爲シタル者ノ謂ニシテ苟モ該行爲ヲ爲シタル者アル以上ハ犯罪成立シ其ノ者カ法人ノ代表

機關トシテ之ヲ爲シタルト否トハ犯罪ノ成否ニ毫モ消長ヲ來スモノニアラス(大審一四年刑三八五頁)

二 暴利取締令ハ同勅令ニ依リ處罰スヘキ違反行爲者カ營業名義人タルコトヲ必要トセス苟モ震災ニ際シ暴利ヲ取得スル目的ヲ以テ生活必需品ニ付買占若ハ賣惜ヲ爲シ又ハ不當ノ價格ニテ其ノ販賣ヲ爲シタル者ハ營業者ナルト否ト又營業者ノ家族若ハ使用人ナルトヲ問フコトナシ(大審一三年刑二三四號一六頁)

◎暴利取締令ト不當ノ價格

勅令第四百五號ニ所謂價格ノ不當ナルヤ否ヤハ公定價格ノ存セサル限リ取引當時ニ於ケル一般ノ社會通念ニ訴ヘテ之ヲ決スルノ外ナキコト當院判例(大正十三年(レ)第七八〇號大正十三年八月五日第一刑事部判決參照)ノ示ス所ニシテ苟モ社會ノ通念ニ訴ヘテ適當ナル價格ヲ超過シタル價值ヲ以テ販賣シタル以上假令其ノ價值カ市價ニ比シ大差ナシトスルモ勅令ニ所謂不當ナル價格ニテ販賣シタルモノト謂ハサルヘカラス原判決認定ノ事實ハ實ニ所謂ノ如クニシテ示取引ハ昨大震災ノ當日ニ爲サレタルモノニ係リ當時諸般ノ物資ハ供給缺乏シ需要過多ナリシ場合ナルヲ以テ多少仕入原價以上ニ於テ相當ノ利益ヲ加算シタル額ヲ超過シテ販賣スルコトハ事情止ムテ得スト雖不時ノ變災ニ際シ他人カ生活必需品ヲ買受ルニ付價格ノ多少ヲ論スルニ違アラサル窮迫ノ境遇ニ在ルニ乘シテ從來一貫目平均廿二三錢ニ販賣シ居リタル食料製水合

◎暴利取締令ト犯情及量刑

計千九十五貫餘チ一貫目三十錢乃至五十錢ニ販賣シ而カモ三百餘圓即チ一貫目ニ平均十五錢餘ノ利益)ヲ得ルカ如キハ其價格ハ社會ノ通念ニ訴ヘテ適當ナル價格ヲ超過シタルモノト認ムヘク之ヲ暴利ニ非スト謂フコトヲ得ス然ラハ原審カ列示行爲ヲ勅令違反トシテ處罰シタルハ相當ニシテ水ノ市價ヲ判定セサルノ一事ヲ以テ原判決ヲ所論ノ如ク不法ナリト謂フコトヲ得ス(大審一三年刑二二二三號二二頁)

代人規則

(明治六年布告第二百十五號、明治三十一年法律第十一號民法施行法ニ依リ廢止)

諸法令 [夕] 代人規則 代書人規則 一條

◎代人規則第五條ノ法意

一 明治六年布告第二百十五號代人規則第五條ハ注意の規定ニシテ委任狀ノ書式ニ不備ノ點アルカ又ハ其授受ナキカ爲メ委任契約ヲ無効トスル法意ニアラサルヲ以テ原裁判所カ「明治六年布告第二百十五號代人規則第五條ニ凡本人ヨリ代理ヲ任シ他人ト契約取引等ヲ爲サント欲スルトキハ必ス實印ヲ押シタル委任狀ヲ與フヘキ旨同第七條ニ其委任狀ノ書式ヲ規定シタルコト控訴人(上告人)主張ノ如シト雖モ同布告中之ニ反スル委任狀ヲ無効トスル規定存セサルノミナラス元來委任狀ハ唯代理權限存在ノ證明文書タルニ止マリ正當ノ代理人タルコトノ證明セラルル以上ハ縱令其書式ニ不備ノ點アリ又ハ其不存在ノ場合ト雖モ之ヲ以テ直チニ代理權ヲシト謂フヲ得サルモノト謂フヘク云云」ト列示シタルハ相當ナリトス(大審九年民一六二二頁)

代書人規則

(大正九年內務省令第四十號)

第一條 本令ニ於テ代書人ト稱スルハ他ノ法令ニ依ラスシテ他人ノ病



託受ケ官署ニ提出スヘキ書類其他權利義務又ハ事實證明ニ關スル書類ノ作成ヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條 代書人タラムトスル者ハ本籍、住所、氏名、年齢及履歴、事務所ノ位置ヲ具シ主タル事務所所在地所轄警察官署ノ許可ヲ受ケハシ

◎司法代書人法ニ依ル代書人ノ要件 (司法代書人法第一條)

第十七條 本令其他ノ法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケシテ代書人トシタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

◎普通代書人作製ノ司法ニ關スル書類

代書人規則ニヨリ警察官署ノ許可ノミヲ受ケタル代書人カ他人ノ囑託ヲ受ケテ作製シタル書類ハ法令ノ條件ヲ具備スル以上裁判所及検事局ニ於テ之カ受理ヲ拒ムコトヲ得ス (民事局長一〇年民事一四六〇號回答)

トテ證據ニ採用シタルニ止リ被告カ委託關係上安太郎ノ印章ヲ自己ノ保管ニ移シタル事實ヲ證スヘキ證據ヲ示ササルハ即チ理由不備ノ瑕疵アルモノトス (大審五年刑三二七頁)

代書營業取締規則 (富山縣令)

◎本令第五條二號ノ旨趣

明治三十六年富山縣令第八十二號代書營業取締規則第五條第二號ハ代書營業者カ訴訟又ハ非訟事件ニ關シ紹介ヲ爲シ若クハ自ラ仲裁鑑定等ヲ爲シタルトキハ自己ヲ利スル目的ヲ以テ自ラ進テ爲シタルト他人ノ依頼ニ依リテ爲シタルトチ間ハス之チ處罰スル旨趣ナリトス (大審六年刑六一頁)

建物保護法

(明治四十二年法律第四十號)

第一條 建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ其ノ土地ノ上ニ登記シタル建物チ有スルトキハ地上權又ハ土地ノ賃借借ハ其ノ登記ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

◎司法代書人ノ認可ヲ受サル者ノ處分

一 司法代書人法ニ依リ認可ヲ受ケルコトナク司法代書人ノ業務ニ屬スル代書業ヲ爲スコトハ代書人規則第十七條ノ處罰スル所ナルカ故ニ其者カ代書人規則ニ依リ代書人タル許可ヲ受ケタルト否トハ之カ犯罪ノ成立ニ消長ナキモノトス (大審一〇年刑四八四頁)  
二 右同旨決議 (法曹會一〇年記事三一卷六號三二頁)

代書人取締規則 (鹿兒島縣)

◎代書人ト他人ノ印章受託ノ禁止

鹿兒島縣代書人取締規則カ其第九條第四號及第十四條ヲ以テ代書人カ他人ノ印章ノ委託ヲ受ケタル行爲ヲ處罰スルハ委任事務處理等ノ爲メ代書人カ他人ノ印章ヲ自己ノ保管ニ移スコトヲ禁シタルノ主旨ニ外ナラサレハ其犯罪ノ成立スルニハ代書人カ單ニ其業務ニ關シ他人ノ印章ヲ受取リタル事實即チ之ヲ自己ノ手ニセル事實アルチ以テ足レリトセス必スヤ事實上依頼者ノ支配ヲ離レテ之ヲ自己ノ保管ニ移セル事實アルコトヲ要スルモノナリトス——被告カ代書人終リタル處安太郎ト稱スル男ハ何處ニ捺印シテ宜數ヤ分ヲサルニヨリ適宜捺印シ矣レト安太郎ノ印章ヲ自己ニ渡シタルチ以テ自分ハ之ヲ受取リ右書類ニ押捺シ遺リタル旨供述シタルコ

建物カ地上權又ハ土地ノ賃借借ノ期間満了前ニ滅失又ハ朽廢シタルトキハ地上權者又ハ土地ノ賃借人ハ其ノ後ノ期間チ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

◎建物保護法第一條ノ第三者 (續民法九九一頁)

◎賃借權讓渡ノ要件ト建物保護法 (續民法一二四九ノ四四頁)

◎本條ノ旨趣及對抗ノ意義

一 明治四十二年法律第四十號制定ノ趣旨ハ同法施行後ニ存在スル未登記地上權ノ對抗條件ヲ新定シ以テ右地上權ニ基キ設ケラレタル建物チ保護スルニアルノミナラス該法律第一條ハ別ニ權利ヲ附與シ若クハ之ヲ剝奪スルモノニ非シテ單ニ對抗條件ヲ定メタルニ過キサレハ荷モ如上ノ權利ニシテ同法施行後ニ於テモ尙ホ實體上存在スル限ハ其設定ノ日カ該法律施行ノ前タルト後タルニ依リ之カ適用不適用ヲ定ムヘキ者ニ非ス (大阪地四二年五九一號一〇頁)

二 明治四十二年法律第四十號第一條ニ地上權又ハ土地ノ賃借權ハ其登記ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得トアルハ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ賃借權チ有スル者チ保護スル爲メ地上權ニ付テハ民法第七十七條ニ對スル例外ヲ設ケ賃借權ニ付テ



ハ民法第六百五條ノ規定ヲ以テ不充分ナリトシ同條ノ要求スル賃借權ノ登記ヲ必要ナラスト爲シタルモノナルコト其法律制定ノ旨趣ニ照シテ明カニシテ物權タル地上權ト債權タル賃借權ト同一規定ノ内ニ網羅シタル爲メ對抗ナル文字ヲ用キタルニ過キサルモノトス故ニ前示法律第一條ニ所謂賃借權ノ對抗ハ第六百五條ニ賃借權ハ云云其效力ヲ生ストアルト同一旨趣ニシテ他意アルニアラスト解スルチ相當トス(大審一〇年民一〇二頁)

◎建物保護法第一條ノ適用

- 一 本法施行以前建物ヲ買得シテ其登記ヲ爲シ且前主カ有セシ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權ヲ繼承シタル者ハ土地ノ所有者ニ變更ナキ場合ニ於テハ本法第一條ノ規定ニ依リ其登記ナキ地上權ヲ以テ土地所有者ニ對抗スルコトヲ得(大審四二年民九〇五頁)
- 二 本法ハ其施行以前ヨリ登記ナキ地上權又ハ賃借權ニ因リテ建物(登記シタル)ヲ所有スル者ト土地所有者トノ關係ニ適用セララルヘキハ勿論同法施行以後土地所有者ニ變更アリタル場合ニハ其新所有者トノ關係ニ付テモ亦之ヲ適用スヘキモノトス(大審四二年民七四一頁)
- 三 家屋新築ノ際其ノ土地ノ上ニ建物朽廢ニ至ル迄ノ推定ノ地上權ヲ有シ而シテ後日其ノ建物ヲ買受ケタル者ハ後日其ノ土地ヲ買受ケタル者ニ對シ其ノ建物朽廢ニ至ルマテ地上權ヲ有スルモノトス(東京地三年法九三七號五三頁)

二頁、大阪控元年法八二四號二六頁)

◎本條第一項ノ登記シタル建物ノ意義

- 一 本條第一項ニ所謂登記シタル建物トハ「不動産登記」若クハ明治十九年法律第一號登記法ノ規定ニ準據シテ不動産登記簿ニ登記シタル建物ノミヲ指稱シ單ニ公證ヲ經タルニ止マルモノヲ包含セザルモノトス(大審四二年民二六頁)
- 二 同旨判例(大阪控三年法九六一號一五頁)

◎建物保護法ノ適用ト登記ノ完否

- 一 本條第一項ニハ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ其土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキトアルカ故ニ甲ノ土地ニ存スル建物トシテ登記シアル場合ニ於テハ其建物カ實際甲乙兩地上ニ跨リテ存スルモ乙地上ニ付テハ建物ノ登記アルモノトシテ本法ノ保護ヲ受クルコトヲ得サルモノトス(大審二年民七一七頁)
- 二 明治四十二年法律第四十號第一條ニ依リ土地ノ賃借人カ其賃借權ヲ第三者ニ對抗セントスルニハ其自己ノ有スル建物ニ付キ登記ヲ爲シタルコトヲ要スルモノニシテ縱令同シ一筆ノ土地内ニ建設セラレタル甲賃借人所有ノ建物ニ登記アリトスルモノニ依リテ登記ナキ建物ノ所有者タル乙賃借人ノ賃借權ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス(大審八年民一三五五頁)

四 建物所有ノ爲メノ地上權ノ存在スル土地ノ地主ニ變更アリ又建物ノ所有者ニ變更アリ而シテ建物ノ讓受人カ其建物ヲ改築シ之ニ對シ地主カ異議ヲ止メサルトキハ建物所有者ハ其ノ地上權ヲ地主ニ對抗シ得ルモノトス(東京地三年法九六三號六九二頁)

五 明治四十二年法律第四〇號建物保護ニ關スル法律ハ同法施行前既ニ地上權又ハ賃借權ノ登記ノ欠缺ヲ主張シ得ル第三者ノ地位ニ立チタル者ニハ之ヲ適用スヘキモノニアラス(東京地三年評論三卷諸法二七三頁)

六 本法ハ本法施行前既ニ民法第七十七條ニ依リ登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ル第三者ノ地位ニ立チタル者ニ適用スヘキモノニアラス(大審二年民一四七頁)

◎同旨判例(大審四二年民七四一頁)

◎建物保護法以前ノ地所買主ト賃借人(民法三四〇頁)

◎建物保護法ト遡及力

- 一 本法ニハ遡及效力有スルカ如キ明文ナキハ勿論他ニ又何等特別法意ノ見ルヘキモノ存セサルノミナラス本法草案附則ノ規定カ削除セラレシヨリ推スモ立法者ノ精神ハ之ヲ遡ラシメサルニ在リシコト明ナルチ以テ其發布前既ニ完全ノ所有權ヲ取得シタル者ニ本法ヲ適用シ其權利ヲ減殺スルコトヲ得サルモノトス(東京控四二年法五七七號九頁)
- 二 同旨判例(大審四四年民七四一頁、東京控七年評論七卷民法八〇

◎建物トシテ登記ヲ受クル適格

瓦テ上ケ床板モ大略出來荒壁モ著キ表廻リハ大凡出來タル建物ハ既ニ建物トシテ登記ヲ受クルニ適スルモノトス(大阪地五年評論六卷諸法三七頁)

◎本法ト地上權ニ關スル法律トノ關係

明治三十三年法律第七十二號第一條ニヨリ地上權者ト推定セラレタル者カ同第二條ノ規定ニ基キ施行後一箇年内ニ地上權ノ登記ヲ爲サザリシトキト雖明治四十二年法律第四十號施行後地上ニ存スル建物ニ付登記ヲ爲シタルトキハ爾後其ノ地上權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス(大審一三年民三五五頁)

◎土地買受人ト賃借關係ノ承繼

一 賃借ノ目的物ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ其舊所有者ト賃借人トノ間ニ存在シタル賃借關係ハ法律上當然其新所有者ト賃借人間ニ移リ新所有者ハ舊所有者ノ賃借契約上ノ地位ヲ承繼シ舊所有者ハ全然其關係ヨリ脫退スルモノトス從テ明治四十二年法律第四十號第一條ニ依リ土地ノ賃借人カ其賃借權ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ於テ賃借人カ其土地ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ土地ノ新所有者ハ其賃借契約ニ基ク舊所有者ノ權利義務ヲ承繼シ舊所有者ハ賃借人タル權利義務ヲ有セサルモノトス(大審



一〇年民一〇一四頁)

◎同旨判例(大審一三年法二二八五號二一頁)

一 本法ニ依リ未登記賃借權ノ保護ヲ受クル建物ノ敷地ヲ買受ケタル第三者ハ當然該賃借關係ヲ承繼シ解約ノ申入ヲ爲ス權限アリ(法曹會決議一一年三二卷一二號二七頁)

◎不動産ノ賣買ト賃貸借ノ承繼(續民法一二四九ノ四二頁、民法四〇四頁)

### 治安警察法

(明治三十三年法律第三十六號)

第四條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスルキハ發起人ヨリ十二時間以前ニ會同スヘキ場所、年月日、時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ祭葬講社學生生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

### ◎本條ノ届出義務ト公訴ノ時效

起セラレルト其ノ以外ノ場所ニ於テ惹起セラレルト同ハス之ヲ防止スルハ安寧秩序ノ保持ニ必要ナル點ニ於テ毫モ遲延アルヲ見ス是等ノ場合ニ於テハ宜シク集會ノ解散ヲ命シ以テ多衆ノ暴動ヲ防壓スルニ依リテ治安ノ維持ヲ達成シ得ヘシ此ノ故ニ屋外ノ集會ニ付テハ屋外ニ於ケル安寧秩序ナ又屋内ノ集會ニ付テハ其ノ屋内ニ於ケル安寧秩序ヲ棄ル場合ニノミ之ヲ解散ヲ爲シ得ルニ過キサルモノナリト解スルハ當ラズ然リ而シテ原判決認定ノ事實ハ論旨掲記ノ如クニシテ即中川小學校屋內運動場ニ集會セル多數ノ小作人等ハ地主ニ對シテ前日同様脅威ノ手段ヲ用キテ小作米ノ減額ノ要求ヲ爲スニ至ルヤモ計リ難キ狀勢ニシテ以テ加治村ニ於ケル安寧秩序ヲ棄スノ虞アリトシ治安警察法第八條ニ依ル解散命令ヲ爲シタルニ退散セザリシモノナリト謂フニ在リテ即小學校ノ屋内集會ハ當時ニ於テ將ニ出テテ地主等ニ對シ前日ノ如ク脅威的行動ヲ爲シ以テ安寧秩序ヲ棄ルノ虞アリト爲シタルモノニシテ右ハ治安警察法第八條ニ依リ解散命令ヲ發シ得ヘキ場合ニ該當スルモノトス(大審一三年刑四八五頁)

### ◎本條ニ所謂警察官ト巡查

治安警察法ヲ通覽スルニ同法第八條ニ所謂警察官中ニハ巡查ヲモ包含スルモノト解スルチ正當ト認ム蓋シ同法ニハ汎ク警察官ト規定シ何等制限の文詞ノ見ルヘキモノナキノミナラス巡查ヲ除外スル趣旨ト解スヘキ別段ノ理據存セザルチ以テナリ(大審一五年刑

諸法令 (子) 治安警察法

九條

治安警察法第四條ニ依ル會同場所年月日其他ノ届出義務ハ現實會同チ爲シタル時ニ消滅スルカ故ニ公訴ノ時效進行セス(民利局長四四年民利甲第九號回答)

第八條 安寧秩序ヲ保持スル爲ニ必要ナル場合ニ於テハ警察官ハ屋外ノ集會又ハ多衆ノ運動者ハ群集ヲ制限、禁止若ハ解散シ又ハ屋内ノ集會ヲ解散スルコトヲ得  
結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

◎治安警察法違反ト騷擾罪トノ區別(續刑法二五三頁)

### ◎本條第一項ノ解散命令ヲ發スル場合

治安警察法第八條ニ所謂集會ノ解散命令ハ廣ク集會ノ多衆力不穩ノ行動ニ出テ又ハ出テントスルニ當リ之ヲ防止又ハ豫防シテ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナル場合ニ於テ發シ得ヘキモノナリトス面シテ集會ノ多衆ニ不穩ノ行動アリテ安寧秩序ノ紊亂カ現實惹起セラレタルト時ニ惹起セラレントスルト又ハ集會ノ其ノ場ニ於テ惹

三一五頁)

### ◎本條ノ解散命令ノ執行方法

警察官カ治安警察法第八條ニ依リ集會ヲ解散シタルトキハ解散命令ノ執行方法トシテ會衆ハ勿論集會ノ主催者ヲモ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得ルモノトス(大審三年刑一四一六頁)

第九條 集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ヲ公判ニ付セサル以前講談論議シ又ハ傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトヲ得ス  
集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被告人ヲ陷害スルノ講談論議ヲ爲スコトヲ得ス

### ◎本條ニ所謂集會ノ意義

一 苟モ公衆ヲ會同スル以上ハ其ノ目的ノ政事ニ關スルト否トナ問ハス治安警察法第九條ニ所謂集會ニ該當スヘキモノトス蓋シ同法第二條ハ政事ニ關スル集會ニ付規定スト雖同法第三條ハ然ラサル集會ニ關スル規定ナルコト明文上疑ナキカ故ニ同法ハ集會ノ取締

一〇五九



ニ付音ニ政事ニ關スルモノノミチ對象ト爲シタルニ非サルヲ知リ得ヘキノミナラス同第四條ノ屋外集會ニ關スル規定ヲ參照スレハ第九條ノ集會ニハ安寧秩序ヲ保持スル必要上其ノ目的如何チ問ハス總テノ集會ヲ包含スルモノト解スルヲ相當トスヘケレハナリ而シテ原判決ニ依レハ所謂日本勞動總同盟友愛會第十年大會ニハ全國ノ代議員ノ外傍聽人ヲモ入場セシメタルモノナレハ右大會ハ即同第九條ニ所謂集會ニ該當スルモノトス (大審一一年刑五二八頁)

二 公衆ヲ入場セシメタル多數人ノ會同ナル以上ハ其會同ノ臨時開催ニ係ルト將タ團體ノ定期大會タルトチ問ハス治安警察法第九條第二項ノ集會ニ該當ス (大審一一年刑五三〇頁)

◎本條二項ノ犯罪人ノ意義

治安警察法第九條第二項ニ所謂犯罪人トハ其者ノ死亡シタルト否トチ問ハス刑ノ執行ヲ終了シタルト否ト論セシテ汎ク確定判決ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ指稱スルモノトス (大審四四年刑二〇三四頁)

◎本條第二項ノ犯罪ノ煽動

内閣彈劾政談演說會ニ於テ一般聽衆ニ對シ代議士ハ現内閣ニ對スル死刑ヲ執行スル爲メ議會ニ於テ總理大臣ニ接近シ敏捷ニ成仕事ヲ爲シテ名聲ヲ博スルヲ得ヘキモ此覺悟ヲ代議士ニ期待シ難キニ

委員ヲ指名シ同委員カ議場ニ於テ日本勞動總同盟友愛會第十年大會ハ資本主義制度ノ根本ニ大斧鐵ヲ加ヘントスル階級闘争ノ陣頭ニ立チ途ニ牢獄ニ繋カレタル諸君ノ御活動ニ對シ萬腔ノ敬意ヲ表ストノ感謝狀案ヲ朗讀シ被告兩名ハ滿場ノ多衆ト共ニ該案文ヲ承認シ次テ被告駒吉ハ出席中ノ犧牲者ニ感謝狀ノ朗讀ヲ爲シ敬意ヲ表スヘキ旨ノ動議ヲ提出シ被告文治ハ之ヲ議場ニ讀リ一同賛成シタルヨリ出席ノ刑事被告人中田〇〇等ノ前ニ於テ被告文治ハ該感謝狀ヲ朗讀シタリト云フニ在リテ右感謝狀ノ朗讀ハ上記刑事被告人ヲ賞揚シ同情ヲ表スルモノナルコト其ノ文詞ニ微シ明瞭ニシテ斯ル感謝狀朗讀ノ議題ニ關シ被告兩名カ交々意見ヲ發表シタルモノナレハ孰レモ該刑事被告人ヲ賞値スル論議ヲ爲シタルモノト謂フヘク其ノ所代治安警察法第九條第二項ニ該當ス (大審一一年刑五三〇頁)

◎同旨判例 (東京控一一年評論一卷諸法二四九頁)

二 「犯罪人ヲ賞値スル」トハ犯罪ニ關聯シテ犯罪者其人ヲ賞値スルノ趣意ナルモ其犯罪ノ内容ヲ指摘スルコトハ必要ニアラス (大審四四年刑二〇三七頁)

附 集會ニ於テ犯罪人又ハ刑事被告人ヲ賞値スルノ論議ヲ爲シタル者ハ其ノ集會ノ發起人タルト否トチ問ハス總テ前掲法條ニ違反スルモノトス (大審一一年刑五二〇頁)

第十二條 集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ故ヲ喧擾シ又ハ狂暴ニ涉

諸法令 [子] 治安警察法

一二條

因リ國民的制裁ヲ以テ死刑ヲ執行スル外ナク聽衆中一人賤ケ獄ニ於ケル秀吉ノ如キ者アラハ此目的ヲ達スル易々タリトノ主旨ヲ述ヘタルトキハ其ノ行爲ハ單ニ當時ノ内閣ヲ攻撃シテ其更迭ヲ促サシカ爲ニ痛烈ナル論鋒ヲ用ヒタルニハ止マラスシテ當局者ノ身體生命ニ對シ危害ヲ加フル者ノ出テテ勸奨シ即チ治安警察法第九條第二項ニ所謂集會ニ於テ犯罪ヲ煽動シタルモノニ外ナラス從テ同法第二十四條ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス (大審三年法四九號二二一頁)

◎本條ニ所謂賞値ノ意義

一 恤トハ必スシモ物質ヲ以テ貧老ヲ賑ハスコトノミチ意味スルニ止ラスシテ果厄相憂ヒ憐愍同情ノ意ヲ寄スルノ義ヲ有スルモノトス而シテ治安警察法第九條第二項ニ所謂賞値ハ賞揚憐恤ノ義ニシテ法律ノ精神ハ精神の慰安ヲ與フルニ止ルト將タ物質的ノ補助ヲ與フルトチ問ハス苟モ集會ニ於テ犯罪人又ハ刑事被告人ヲ賞揚シテ同情ヲ表スルコトヲ禁止スルニ在ルコト明白ナリ蓋此種ノ行爲ハ其ノ手段ノ前者タルト後者タルトチ問ハス國家社會ノ治安ヲ害スルノ虞アル點ニ於テ毫モ差異アルコトナキカ故ニ賞値ヲ以テ物質的補助ノミニ限ルト解スルハ法ノ本旨ニ違フモノトス而シテ原判旨ニ依レハ代議員其ノ他傍聽人入場ノ日本勞動總同盟友愛會第十年大會ニ於テ勞動爭議ニ關シ檢舉收監セラレタル會員八十餘名ニ對シ感謝狀發送ノ動議可決セラレルヤ被告文治ハ感謝狀起草

ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得

◎治安警察法違犯ト騷擾罪トノ區別 (續刑法二五三頁)

◎本條ノ適用範圍

本條ハ集會ヲ解散シタル場合ニ關スル規定ニアラサルヲ以テ集會ヲ解散シタル場合ニ偶マ故ニ喧擾シ又ハ狂暴ニ涉ル者アルモ第十二條ノ規定ニ依ルノ要ナク第八條ニ依リ警察官又ハ其補助者タル巡查ニ於テ其者ニ對シ直ニ退場ヲ命スルコトヲ得ルモノトス (大審三年刑一四一九頁)

第十四條 秘密ノ結社ハ之ヲ禁ス

◎秘密結社ノ意義

治安警察法ニ所謂秘密ノ結社トハ一定ノ共同目的ノ爲ニ結合セル特定多數人ノ團體ニシテ其ノ社員間ニ於テ其ノ存在組織及目的等其ノ團體ニ關スル事項ヲ秘シテ國家ニ知ラシメサルコトヲ約スル

一四條

一〇六一



モノヲ指稱スルモノニシテ其ノ目的ノ政治ニ在リヤ將タ其ノ規約書社員名簿又ハ暗號ノ作成如何ヲ論セス苟モ一定ノ目的ヲ以テ秘密ノ結社ヲ組織スル以上ハ治安警察法第二十八條ノ罪ヲ構成スルモノトス(大審一三年刑六八一頁)

第十六條 街頭其ノ他公衆ノ自由ニ交通スルコトヲ得ル場所ニ於テ文書、圖畫、詩歌ノ揭示、頒布、朗讀若ハ放吟又ハ言語形容其ノ他ノ作爲ヲ爲シ其ノ狀況安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ警察官ニ於テ禁止ヲ命スルコトヲ得

◎本條ノ違犯トナラサル場合

街路ニ於テ群集ニ對シ曩キニ待從長トシテ不忠不臣ノ行爲ヲ爲シ不敬ノ罪ヲ犯セル者ヲ以テ其首領トセハ政黨ノ内容ハ推シテ知ルヘキノミナラス此ノ如キ者ニ政權ヲ握ラシムルハ不可ナル旨ノ政談ニ紛ハシキ口演ヲ爲シタリト云フニ止リ警察官吏ヨリ其演述ノ禁止ヲ命セラレナカラ尙之ヲ演述シタルモノニ非サル事實ハ罪トナラス(大審二年法九一一號五頁)

◎明治二十六年警察令第十一號ノ廢止

明治二十六年警察令第十一號ハ明治二十六年法律第十四號集會政社法ヲ改正セル明治三十三年法律第三十六號治安警察法第十六條ニ於テ之ト同一ノ事項ヲ規定セルニ因リテ自ラ廢止セラレタルモノトス(大審二年刑一三〇五頁)

第十七條 左ノ各號ノ目的ヲ以テ他人ニ對シテ暴行脅迫シ若ハ公然誹毀シ又ハ第二條ノ目的ヲ以テ他人ヲ誘惑若ハ煽動スルコトヲ得ス(中略)

二 同盟解雇若ハ同盟罷業ヲ遂行スルカ爲使用者ヲシテ勞務者ヲ解雇セシメ若ハ勞務ニ從事スルノ申込ヲ拒絕セシメ又ハ勞務者ヲシテ勞務ヲ停廢セシメ若ハ勞務者トシテ雇傭スルノ申込ヲ拒絕セシムルコト

◎治安警察法第十七條ノ暴行ノ意義(續刑法七〇八頁)

◎小作料減額請求ノ示威運動ト其處罰(續刑法五〇九頁)

◎巡查ノ職務ト小作爭議ノ調停(續刑法四四九頁)

◎本條ノ他人ノ意義

一 治安警察法第十七條ニ違反シテ他人ヲ誘惑若ハ煽動スル罪ヲ構

成スルニハ誘惑煽動カ特定ノ人ニ對スルモノナルコトヲ要セス不特定ナル多數ノ人ニ對スルモノト雖使用者若ハ勞務者ニ對シテ行ハルルニ於テハ同法條ノ違反タルヲ免レス(大審一一年刑三三四頁)

二 治安警察法第十七條ノ他人ノ意義(續刑法七〇八頁)

◎本條ノ煽動ノ意義

同盟罷業ヲ遂行スル爲勞務者ヲシテ勞務ヲ停廢セシムル目的ヲ以テ他人ニ對シテ勸誘說得シタル場合ニ其ノ勸誘說得ニ關スル告知カ他人ノ認識ニ達スルニ於テハ治安警察法第十七條ニ所謂第二號ノ目的ヲ以テ他人ヲ煽動シタルモノニ該當シ告知ヲ受ケタル他人ノ心理上現實ニ如何ナル影響ヲ生シタルヤニ關係ナク其ノ行爲ハ同法條違反タルヲ免レサルモノトス(大審一一年刑三三九頁)

◎本條第一項違反罪ノ構成要件

一 治安警察法第十七條第一項ニ所謂第二號ノ目的ヲ以テ他人ヲ煽動スルトハ同條第二號記載事項ノ結果ヲ發生セシムヘキコトヲ期待シテ煽動ノ行爲ヲ行フノ謂ニ外ナラサルヲ以テ右違反罪ノ構成ニハ其期待ノ下ニ煽動ノ行ハルルヲ以テ足り必スシモ結果ノ發生ヲ主タル目的トシ又其目的カ煽動行爲ノ主要ナル動機タルコトヲ要セサルモノトス(大審九年刑一五三頁)

二 將來ノ罷業遂行ヲ煽動スルト現ニ遂行シツアル罷業ノ繼續ヲ

煽動スルトハ其勞務停廢ノ結果ヲ發生スルニ於テ同一ナルヲ以テ均シク治安警察法第十七條ノ違反行爲タルモノトス(同上)

◎本條違反ノ罪ト刑法脅迫罪トノ關係

治安警察法第三十條ハ同法第十七條所定ノ目的ヲ以テ他人ノ生命身體自由名譽財產ニ對シ脅迫ヲ爲シタル場合ニ於テ舊刑法ノ脅迫罪ニ科シタル刑罰ニ比シ重ク處罰スルノ必要アリトシ規定シタルモノナルコトハ其ノ刑罰及構成要件ノ比較對照上極メテ明ニシテ此ノ點ニ於テハ治安警察法ハ舊刑法ニ對シ特別法トシテ之レニ優先シテ其ノ適用ヲ見ルヘキモノトス然ルニ明治四十年法律第四十五號ヲ以テ舊刑法ハ廢止ニ歸シ爾後現行刑法實施セラレルニ至リタリト雖普通法タル刑法ノ改正ニ過キサレハ脅迫罪ノ處罰ニ關シ治安警察法ト舊刑法トノ間ニ存シタル特別法及普通法ノ關係ハ現行刑法ニ對シテモ依然存續スルモノト云ハサルヘカラス而シテ普通法ニ優先シテ適用セラレヘキ特別法ニシテ廢止セラレタル以上ハ特別法ニ規定シタル同一事項ニ關シテ普通法ノ適用ヲ見ルヘキハ當然ノ法理ナリトス(大審一五年刑五二四頁)

第十八條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要ト認ムルトキハ戎器、爆發物又ハ戎器ヲ仕込ミタル物件ノ携帯ヲ禁スルコトヲ得



◎本令ト治安警察法第一八條トノ關係(明治三十三年內務省令第三六號)  
◎日本共産黨ノ秘密結社ノ判決(東京地一四四年法二四四九號五頁同二四五—號五頁)

### 治安維持法

#### ◎治安維持法ト其ノ運用

第五十回議會ヲ通過シタル治安維持法及ヒ改正選舉法ニ付キテハ解釋上幾多ノ疑義ヲ存スルノミナラス其ノ運用亦必スシモ容易ナリト謂フヘカラス司法官ハ豫メ之カ調査研究ヲ遂ケテ法ノ精神ヲ闡明シ法文ノ意義ヲ確定シテ其ノ適用ニ支障ナカラシムルヲ要ス殊ニ治安維持法案ノ討議ニ際シ一派ノ論者ハ司法官ノ運用動モスレハ正鵠ヲ失スルノ虞アルニ藉口シテ極力其ノ通過ヲ妨ケント試ミタル事實ニ鑑ミ職ニ司法ニ在ル者ハ深ク思フ此點ニ致シ是等ノ論者ヲシテ先見ノ明ヲ誇ラシムルコトナキテ期セサルヘカラス(大正十四年司法官會同ニ於ケル横田大審院長ノ演說ノ一節法二四—四號三頁)

- 四 主タル家屋ノ存在ナクシテ其獨立ヲ保ツコト能ハサル建物ノ如キハ全ク附屬物ニ過キサルヲ以テ之テ地上權者トシテ保護スルノ必要ナキカ故ニ新ル從屬的ノ建物ヲ右ノ法律施行以前ヨリ他人ノ地上ニ所有シ其地所ヲ使用シ居レトスルモ地上權者タルノ推定ヲ受クヘキモノニ非ス(東京地四二年法五六六號九頁)
- 五 家屋ヲ所有スル爲メ他人ノ土地ヲ使用スル事實アリトスルモ本法施行後ナル場合ニ於テハ地上權者タルノ推定ヲ受クヘキモノニ非ス(東京地四二年法五五八號一頁)
- 六 本法施行前ニ於テ建物ヲ所有スル爲メ他人ノ地所ヲ使用スル者ハ民法實施前ヨリナルト民法實施後新ニ借地シテ家屋ヲ建設シタル場合ナルトテ間ハ右第一條ノ適用ヲ受クヘキモノトス(大審三四年民一一卷八六頁)
- 七 本法施行前ヨリ他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ該土地ヲ使用スル者ハ其使用ノ始期ノ判然セルト否トニ論ナク地上權者タルノ推定ヲ受クヘキモノトス(大審三九年民一一二一九頁)
- 八 土地使用ノ關係ニシテ本條ノ條件ヲ具備スルトキハ本法施行後幾多ノ年月ヲ經過シタリトモ土地ノ所有者ト地上權者トノ間ニ在テハ本法ノ推定ヲ受クルコトノ妨ケトナラス(大審三七年民四九三頁)
- 九 工作物ノ竣成カ本法ノ施行後ナリト雖モ其起工カ同法施行前タリシ以上ハ其起工ノ事實ノミニヨリテモ所謂他人ノ地上ニ工作物ヲ所有スル爲メ其土地ヲ使用スルモノト認メ地上權ノ推定アリト

### 地上權ニ關スル法律

(明治三十三年法律第七十二號)

第一條 本法施行前他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ其ノ土地ヲ使用スル者ハ地上權者ト推定ス

#### ◎本條ノ適用範圍

- 一 本法ハ當事者ノ契約上ノ意思ヲ知ルヲ得サル場合ニ於ケル規定ニ付キ當事者ノ意思ヲ知リ得ヘキ場合ニハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス(大審三三年民一〇卷五〇頁)
- 二 本法施行前ヨリ事實上他人ノ土地ニ工作物ヲ所有スルモ直チニ地上權者ノ推定ヲ受クルモノニ非ス何トナレハ右法律ハ當事者間ノ契約上ノ意思ヲ知ルヲ得サル場合ノ規定ニシテ當事者間ニ全然借地契約ノ存在セサル場合ニハ同法ノ適用ナキヲ以テナリ(東京地四三年法六四六號一頁)
- 三 土地使用ノ狀況法律ニ所謂工作物ヲ所有スル爲メニ非スシテ他ノ目的ノ爲メニ出テ工作物ト認ムルニ足ラサル掘建小屋ヲ保有スルモノノ如キハ本條ノ規定ヲ適用スルヲ得ス(大審三五年民二卷四二頁)

- 爲スナ當然トス(東京地四二年最五卷一九二頁)
  - 一〇 地上權者タルノ推定ヲ受クヘキ者ノ承繼人モ亦同様ノ推定ヲ受クルモノトス(東京地四一年法四八六號八頁)
  - 一一 本法施行後一ノ年ノ登記猶豫期間内ニ於テ家屋ト共ニ地上權ヲ買得シタル者ト其土地ノ所有權ヲ買得シタル者トノ權利關係ハ前所有者間ノ權利關係ト同シク反對ノ證據アラサル限ハ同法第一條ノ推定ヲ受クヘキモノニシテ地上權ノ買得者ハ登記ヲ爲スナ要セス所有權者ニ對シテ地上權ヲ主張シ所有權者ハ之ニ抗拒スルコトヲ得サルモノトス(大審三六年民一卷六九頁)
  - 一二 他人ノ所有地ノ上ニ建物ヲ所有シ土地ヲ使用スル者ハ明治三十三年法律七十二號ニ依リ地上權者タルノ推定ヲ受クヘシト雖モ土地所有者ニ於テ之カ反證ヲ舉ケタル場合ニ於テハ其法律關係ノ實情ナリヤ地上權ナリヤヲ決スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス(大審三三年民一一卷一一五頁)
  - ◎推定ノ地上權(續民法九九一頁)
  - ◎地上權ノ推定ヲ打破スル反證(續民法九九三頁、民法三九八頁)
  - ◎地上權力將タ貸借借カ(民法一二六頁、同三九八頁)
  - ◎借地關係ト證書ノ解釋(續民法九九三頁、民法一二五頁)
- ◎地上權ノ推定ニ關スル理由不備
- 甲第二號證第十一條ノ「本契約ハ貴殿ノ利益ニ於テ他ノ解釋又ハ慣習ヲ認メサルコト」ニ依リ土地貸借契約以外地主ノ不利益ヲ



ル地上權設定契約ト解釋セサルヘキ特別ノ合意ヲ爲シタルコトヲ主張スルモノナレハ原院カ本件ノ借地權ヲ以テ明治三十三年法律第七十二號ニ依ル推定地上權ナリト爲サンニハ右條項ヲ如何ニ解釋スヘキカノ理由ヲ列示セサル可カラズ然ルニ原院カ如上ノ文詞アルコトヲ認メナカラ此點ニ關シ何等ノ判斷ヲ爲サズ漫然同法條ヲ適用シ地上權ト推定シタルハ理由不備ノ不法アルモノトス(大審六年法一三三八號二八頁)

◎市區改正ニ因ル建物ノ取毀ト地上權

本法ニ依リ推定セラレタル地上權ノ目的地上ニ存在シタル建物カ市區改正ノ結果取毀タレタルトキハ右取毀ノ時ニ於テ地上權カ建物ノ滅失又ハ朽廢ニ因リ消滅シタルモノト謂フコトヲ得ス(東京地四年評論四卷諸法一五頁)

第二條 第一條ノ地上權者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年內ニ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
前項ノ規定ハ本法施行前ニ善意ニテ取得シタル第三者ノ權利ヲ害スルコトナシ

◎本法ト地上權ニ關スル法律トノ關係(建物保護法第一條)

◎本條ノ解釋

一 明治三十三年法律第七十二號第二條ハ第一條ノ推定ヲ受クル地上權者ハ同法施行ノ日ヨリ一箇年內ニ於テハ縱令登記ヲ爲ササルモ其施行前善意ニテ土地ノ權利ヲ取得シタル第三者及ヒ善意ナルト否トヲ問ハス其施行後一箇年內ニ土地ノ權利ヲ取得シタル第三者ニ對シテ其權利ヲ對抗シ得ヘキ法意ナリトス(大審三八年民六二二頁)

二 第二條ハ本法施行後一年ヲ經過スルモ地上權者カ地上權ノ登記ヲ爲ササル時ニ於テ所有者ヨリ其土地ヲ讓受ケ若クハ其土地ヲ目的トシテ他ノ物權ヲ取得シタル第三者ニ對シテ地上權者ニ於テ地上權ヲ主張スルヲ得サルコトヲ意味スル迄ノモノニ過キス(大審三七年民四九三頁)

三 本法第二條ハ第一條ニ依リ地上權者ト推定セラレヘキ者ハ本法施行前及ヒ其施行後一年內ニ其使用スル土地ニ付キ權利ヲ取得シタル第三者ニ對シテハ本法施行ノ日ヨリ一年ヲ過キタル後ト雖モ尙ホ登記ナクシテ其地上權ヲ對抗シ得ル法意ナリトス(大審四三年民九七六頁)

四 明治三十三年法律第七十二號ニ依ル地上權者カ同法施行後一箇年內ニ其權利ヲ讓渡シタル場合ニ在テハ讓受人ハ登記ヲ爲ササルモ其地上權ヲ以テ土地所有者ニ對抗シ得ルモノトス(大審四〇年民七七二頁)

五 本條ハ其反面ニ於テ土地所有者ニ變更ナキ場合ハ勿論同法施行前及ヒ其施行後一年內ニ權利ヲ取得シタル第三者ニ對シテモ同法施行後一年ヲ經過シタル後ト雖モ登記ナクシテ對抗シ得ルコトヲ示シタルモノトス(東京地四年評論四卷民法四九七頁)

◎善意ノ第三者ノ意義

一 明治三十三年法律第七十二號第二條ニ所謂第三者トハ同法第一條ニ由リ地上權者タル推定ヲ受ケヘキ者カ法定ノ期間內ニ登記ヲ爲ササル爲メ其地上權ヲ以テ對抗シ得サル所ノ者ヲ指ス(大審三五年民六卷一六七頁)

二 明治三十三年法律第七十二號第二條第二項ニ所謂善意ノ第三者トハ地所取得ノ際其土地ニ家屋ヲ所有シ之ヲ使用スルモ地上權者タルコトヲ知ラサル取得者ヲ云フ(大審三五年民四卷一二六頁)

三 單ニ他人カ其地ニ工作物ヲ建築シ之ヲ使用シ居ル事實ヲ知テ土地ヲ取得シタルトノコトノミヲ以テ直ニ之ヲ地上權ノ設定アルコトヲ知リタル善意ノ取得者ナリト認ムルヲ得ス(大審三五年民五卷二七頁)

四 明治三十三年法律第七十二號第二條第二項ニ所謂本法施行前ニ善意ニテ取得シタル第三者トハ民法施行法第三十七條ノ猶豫期限經過ノ後其取得セントスル地所ニ付キ登記簿上地上權者ナキ事實ヲ確メ善意ニテ地上權ヲ取得シタル者ヲ云フ(大審三四年民三卷四八頁)

諸法令 (子) 地上權ニ關スル法律

五 本條第二條第二項ニ所謂善意ニテ取得シタル第三者トハ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ他人ノ土地ヲ使用スル者カ民法施行法第三十七條ノ一年ノ期間內ニ地上權ノ登記ヲ爲ササリシヨリ其者ニ於テ地上權ヲ拋棄シタルモノト信認シ當時ノ法律ヲ遵奉シテ其土地ノ所有權其他ノ權利ヲ取得シタル第三者ヲ謂フ(大審三四年民一卷五〇頁)

◎善意ナルコトノ主張ト舉證ノ責任

明治三十三年法律第七十二號第二條ノ各項ヲ講究スルトキハ同條第一項ノ規定ヲ以テ本則ト見ルコトヲ得ヘキカ故ニ其例外ニ屬スル第二項ノ規定ニ依リ善意ナルコトヲ主張スル第三者ハ之カ證據ヲ舉クヘキ責任アルモノトス(大審三六年民六〇五頁)

◎地上權ト假登記ノ效力

明治三十三年法律第七十二號ニ依ル地上權假登記ハ本登記ト同シク當事者ハ勿論第三者ニ對シテモ效力アルモノトス(東京地三九年最一卷四頁)

◎假登記ノ性質及效力(續民法九三二頁)

◎假登記ノ效力(續民法九三二頁)

◎假登記名義人ト利害關係人(諸法令上卷二〇四頁)



### 地所買受地券申請ノ件

明治七年太政官布告第四百四號參看

### 地所買入書入規則

(明治六年布告十八號、明治四十三年廢止)

第四條 地所買入ニ致シ候節ハ地券ヲモ相渡シ可申其年期ノ儀ハ三ヶ年ヲ限ル可シ尤三ヶ年以下期限取極候儀ハ勝手タルヘク且ツ年限取極候廉ハ判然證文面ニ記載致シ置可申事

但書入ノ儀ハ地券相渡スニ及ハス其年限長短共本文ノ限ニアラスト雖モ雙方相對ニテ取極候年限ハ本文同様證文面ニ記載致置可申事

○舊法三ヶ年ヲ超過スル土地買入ノ效力(民法一六二頁)

第十一條 地所ハ勿論地券ノミタリトモ外國人ハ賣買買入書入等致シ

金子請取又ハ借受候儀一切不相成候事

### ○外國人ト爲シタル組合契約ノ效力

外國人ハ我國ニ於テ土地ヲ所有スルコトヲ得サルハ明治六年太政官布告第十八號地所買入書入規則第十一條ニ明規スル所ニシテ該規則タルヤ公ノ秩序ニ關スル強行法規ナルヲ以テ之ニ違背シ外國人ヲシテ單獨ニ土地ノ所有權ヲ取得セシムル行爲ハ勿論之カ共有權ヲ取得セシムル行爲ノ如キモ總テ無効ナリトス從テ外國人ヲシテ土地ノ共有權ヲ取得セシムルコトヲ目的トスル組合契約モ亦當然無効ナルモノトス(大審九年民七三二頁)

附 如上ノ場合ニ於テ當事者カ該組合ヲ有效ナリト信シ其解散ニ依リ生スヘキ清算ニ代ヘテ外國人ノ出資シタル金員ヲ支拂フ爲メ之ヲ目的トシ當事者間ニ準消費貸借契約ヲ締結スルモ該契約ハ組合ノ解散ニ基ク一種ノ清算處分トシテ締結シタルモノニ外ナラサルカ故ニ無効ナリトス(同上七三三頁)

○外國人ト私權ノ享有(續民法六九三頁)

○外國人ノ權利能力ナキ場合(續民法六九四頁)

### ○外國人ニ土地賣渡ト手附金ノ取戻

外國人ニ土地ヲ賣渡シ受領シタル手附金ハ明治六年太政官布告第

十八號第十一條ノ規定ニ依リ法律上無効ノ契約ニ基因シタルモノナレハ返還スヘキ義務アルモノトス然レトモ該行爲自體ハ公ノ秩序善良ノ風俗ニ反スルモノニ非サレハ右手附金ノ給付ハ民法第七百八條ニ所謂不法原因ノ爲メノ給付ナリト謂フコトヲ得ス(東京控一四四年法二四六六號四頁)

### 地租條例

(明治十七年三月布告第七號)

第十條 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出ツヘシ地目ヲ變換又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ其地價ヲ修正ス但第十條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

### ◎地租條例ノ届出違犯ト即時犯

- 一 地租條例第十條届出違犯ノ所爲ハ即時犯ナリトス(民刑局長二年甲第一九九號回答)
- 二 地租條例第十條届出違犯ノ所爲ヲ即時犯トナス理由ハ此犯罪ノ成立ハ届出ヲ怠リタルトキニアリ其後犯罪ノ結果繼續スルコトアルモ犯罪行爲ハ繼續セス從テ繼續犯ト爲スヘカラサルニヨル(民

諸法令 [子] 地租條例 一〇條

刑局長二八年甲第二四四號回答)

第十一條 地租ヲ課スル土地地租課セサル土地ト爲シ又ハ地租課セサル土地地租課スル土地ト爲シタルトキハ政府ニ届出ツヘシ但之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノニ付テハ此限ニ在ラス

地租課セサル土地地租課スル土地ト爲シタルトキハ其地ノ現況ニ依リ直ニ其土地ノ地價ヲ定ム但第十六條第四項ノ場合ハ此限ニ在ラス

### ◎本條ノ届出違犯ト即時犯

地租條例第十一條ニ違犯シ同條例第二十六條ニ依リ處斷スヘキモノハ即時犯ナリトス(刑事局長二三年甲第五八號回答)

### 第十三條 地租ハ左ニ掲クル者ヨリ之ヲ徵收ス

- 一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者
- 二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ

一三條 一〇六九



地上權者  
 三 其他ノ土地ニ付テハ所有者  
 前項ニ於テ實權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ實權者、  
 地上權者、所有者トシテ登錄セラレタル者ヲ謂フ

◎本條ノ法意

地租條例第十三條ハ單ニ徵稅手續ヲ定ムルニ止ラス納稅義務者及  
 納稅義務發生ノ時期ヲ定メタルモノトス（行政七年法一三九一號  
 三一頁）

◎土地買受人ノ臺帳登錄前ト納稅義務

土地ノ買受人ニ於テ所有權移轉ノ登記ヲ經タルニ拘ラス稅務署ノ  
 取扱手續上土地臺帳ニ登錄ヲ爲サザリシ場合ニ在リテハ民法上ノ  
 所有者タル買受人ヲ以テ地租ノ納稅義務者ト認ムヘキモノトス  
 （行政一一年評論一〇一頁）

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ届出ヘシ（以下略）

チ支拂ヒテ爨炊シタルトキハ構戶ノ事實アルモノトス（行政一  
 一年評論一〇一頁）

二 妻子ト共ニ他人方ニ寄寓シテ居室ヲ共通シ飲食ヲ共ニシ薪炭油  
 ヲ共用シ是等ノ實費ヲ支拂シタル者ハ一戶ヲ構ヘタル者ニ非ス從  
 テ戸數割ヲ賦課スルコトヲ得ス（行政四年法七三三號二九頁）

三 妻ト共ニ父ノ住宅ト板壁ニテ隔離セラレタル家屋ニ起臥シ別ニ  
 應テ設ケテ炊爨ヲ營ミ飲食ヲ爲シ且家屋ノ出入口ニ自己ノ門標ヲ  
 掲ケ居ル者ハ別ニ一戶ヲ構フルモノト謂ハサルヲ得ス（行政七年  
 法一四八〇號二六頁）

四 被告ハ原告ノ借受ケタル部分ニハ別ニ出入口ヲ設ケ原告ハ自己  
 ノ門標ヲ掲ケ日常生活ニ必要ナル家具、器具、一切ヲ備ヘ食事ノ際ハ  
 自己購入ノ木炭等ニテ湯茶ヲ調ヘ電燈點火料等ニ至ルマテ總テ自  
 ラ之ヲ調辨シ居レリト主張スルモ乙號諸證中原告カ家具及茶器類  
 ノ外必要ナル家具一切ヲ所有シタルトノ事實ヲ證スルニ足ルモノ  
 ナシ然レハ其ノ他ノ事項ハ被告主張ノ如シトスルモ之ヲ以テ前示  
 ノ認定ヲ覆スニ足ラス又被告ハ原告ハ世帯主トシテ住所寄留ノ届  
 出ヲ爲シタルヲ以テ戸ヲ構ヘタル者ナルコト明ナリト主張スルモ  
 原告ノ生活狀態ニシテ前示ノ如クナル以上世帯主トシテ住所寄留  
 ヲ爲シタルトノ故ヲ以テ戸ヲ構フルモノト爲スコトヲ得ス（行政  
 八年法一五五四號二〇頁）

五 構戶ノ事實ハ全家族居住セサル場合ニ於テモ存在シ得ヘク從テ  
 全家族移住後雇人ヲ使用シ從前ノ如ク引續キ酒ノ製造販賣ヲ爲シ  
 諸法令 [子] 地方稅規則 一條

◎窃ニ他人ノ所有地ヲ開墾シタル者ノ制裁

竊ニ他人ノ所有地ヲ開墾シ植物ヲ植付クルモ地租條例ノ制裁ヲ受  
 ケルモノニアラス（刑事局長二二年甲第二二四號回答）

◎隱田切開ノ規定ト地租條例

明治九年第六十七號布告隱田切開ノ規定第三條第四條ハ地租條例  
 ニ抵觸セサルニ依リ現存ス（民利局長二八年甲第三八九號回答）

地方稅規則

（明治十三年太政官布告第十六號）

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

- 一 地租三分一以内
- 一 營業稅並雜種稅
- 一 戶數割

◎構戶ノ事實アリヤ否ヤノ認定

一 雜座數ヲ實借シテ居住シ主要食物タル飯米ノ原料ヲ購買シ報酬

家屋ハ座數等從前ノ儘ト爲シ置キ雇人ヲ從前ノ如ク其一部ニ居住  
 セシメ其者ノ計算ニ於テ雇人ハ營業ニ從事シ之ヲ監督ノ爲時々歸  
 村ノ際ニハ右家屋ニ宿泊シタルトキハ未タ其者ハ從前ノ戸ヲ撤廢  
 セサルモノト認ムルヲ相當トス（行政一一年評論一〇一頁）

◎構戶ノ觀念ト獨立ノ生計ヲ營ム事實

- 一 構戶ノ意義ハ地方稅規則實施以來變更ナク獨立ノ生計ヲ營ムコ  
 トト同義ニ非ス（行政七年法一三九四號二七頁）
- 二 家計カ他人ノ補助又ハ給與ニ依ル事實ハ戶ヲ構フル者タルヲ妨  
 グルモノニ非ス（行政六年法一三三〇號三二頁）
- 三 他人ヨリ生計費ノ支給ヲ受ケテ炊爨ヲ爲シ生計ヲ營ムモ尙其ノ  
 者ノ戸タルヲ妨クルモノニ非サルト同時ニ其ノ戸ハ生計費支給者  
 ノ戸ナリト謂フコトヲ得サルモノトス（行政四年法一〇一九號三  
 〇九頁）
- 四 被告ハ戶ノ意義ハ社會狀態ニ變遷スヘキモノニシテ現時ニ於テ  
 ハ構戶ノ觀念ハ應テ設ケ自爨炊ヲ爲スカ如キ有形的ノモノニ限定  
 スルコトナク獨立ノ生計ヲ營ム者ノ如キ實質的ノ二戶ヲ構フル者モ  
 亦構戶者ノ中ニ包含スルモノト解スルヲ相當トスト主張スルモ稅  
 法ノ規定ハ蓋リニ之ヲ布行シ課稅ノ範圍ヲ擴張スヘキモノニアラ  
 ス而シテ構戶ノ觀念ト獨立ノ生計ヲ營ム事實トハ直接何關係ナ  
 キヲ以テ廣島縣稅賦課規則第三十四條第三號ノ規定ハ明治十三年



太政官布告地方税規則ニ違背スルモノト云ハサルヲ得ス(行政九年法一七三四號二二頁)

◎住居ト構戸及二箇以上ノ構戸

- 一 住居ト構戸トハ別箇ノ事實ナルノミナラス構戸ハ二箇以上ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(行政七年法一四三一號二六頁)
  - 二 他町村ニ轉籍シテ構戸ルモ從來ノ本籍地ニ於テモ依然戸ヲ構フル者ト認ムヘキ場合ニハ構戸ノ事實アル各町村ニ於テ各別ニ戸數割ヲ賦課シ得ヘキモノトス(行政四年法一〇七五號一八頁)
  - 三 他村ニ本籍ヲ變更シタル旨ノ届出ヲ爲スモ引續キ舊住宅ニ於テ家事ヲ經營スルノ事實アル以上ハ構戸者トシテ賦課戸數割ヲ賦課シタルハ違法ニ非ス(行政六年法一二三五號三二頁)
  - 四 生活ノ本據タルコトハ構戸ノ要件ニ非ス又二府縣以上ニ於ケル法令ニ定メタル課税條件アル以上各其ノ條件ノ存スル府縣ニ於テ地方税ヲ賦課スルハ素ヨリ正當ナリ(行政五年法一一三八號三三頁)
  - 五 一戸ヲ構ヘタリトシテ戸數割ヲ賦課セラルルニハ必スシモ引續キ其地ニ住居スルヲ要セス(行政四年法五〇五號一二頁)
- 附 戸數割ノ賦課期日ニ戸ヲ構ヘ居リタル者ニ其村ノ村長カ戸數割ヲ賦課シタルハ相當ナリトス一戸數割ハ賦課期日ニ於テ既ニ戸ヲ撤廢シタル者ニ戸數割ヲ賦課シタルハ違法ナリトス(行政一年評論一 卷諸法一三四頁)

附 市現住ノ事實ノミヲ以テ其市所在ノ家屋ニ住居スルモノト断定スルヲ得ス從テ此一事ノミヲ以テ戸數割ヲ賦課シタルトキハ適法ナリト云フヲ得ス(行政四三年法六六九號一八頁)

◎旅人宿居住者ト構戸

旅人宿營業者ノ營業用家屋以外約半町ヲ隔ツル獨立ノ家ニ居住スルモ一定ノ賄料ヲ支拂ヒ食事一切ノ供給ヲ受ケ居ル者ハ一戸ヲ構フルモノト謂フヲ得ス(行政四年法一〇六三號三〇頁)

◎寺院住職ト構戸

- 一 寺院ノ住職カ單身起臥スルニ過キスシテ自ラ爨炊ヲ爲ス者ト認ムヘカラサル場合ニ於テハ一戸ヲ構フル者ト云フヲ得ス(行政三年法九八二號二一八頁)
- 二 寺院ノ住職カ寺院ノ收入ノ自由處分ヲ許サレテ以テ任意ノ生活ヲ營ミ居ルトキハ其居住及炊爨ノ場所カ寺院内ナルト否トニ拘ラス住職カ一人ノ資格ニ於テ炊爨ヲ爲スモノト認ムヘキカ故ニ一戸ヲ構フルモノナリ(行政五年法一一一九號三三頁)

◎區裁判所出張所ノ宿直員ト戸數割

- 一 司法省ノ訓令ニ依リ區裁判所出張所ニ常宿直ヲ爲スモノハ戸數

- 割ヲ賦課セラルヘキモノトス(法曹會決議四五年二二卷四號)
- 二 區裁判所出張所假廳舎内ニ宿直起臥シ食事一切ハ一定ノ賄料ヲ支拂ヒ其供給ヲ受ケ居ル者ノ如キハ一戸ヲ構フル者ト云フヲ得ス(行政四年法九九七號二六二頁)

◎村税戸數割ト村住民タル資格有無

村住民タルヤ否ニ拘ラス其村内ニ構戸ノ事實アル者ハ村税戸數割附加税ノ賦課ヲ免ルコトヲ得ス(行政六年法一二七四號二七頁)

◎戸數割及附加税ト三月以上ノ滞在者

明治十三年太政官布告第十六號地方税規則ニ依ル縣稅戸數割及其ノ附加税ハ構戸ノ事實ニ對シテ賦課スルモノニシテ住所タルト否ト問フモノニ非ス又府縣制第五號ニ依レハ三箇月以上府縣内ニ滞在スル者ハ府縣稅ヲ納ムルノ義務ヲ負ヒ町村制第九十八條ニ依レハ三月以上町村内ニ滞在スル者ハ町村稅ヲ納ムルノ義務ヲ負フモノニシテ住所有スル者ニ限リテ納税ノ義務ヲ負フヘキモノニ非ス從テ住所ノ何レニ在ルニ拘ラス苟モ賦課期日ニ於テ府縣内又ハ町村内ニ一戸ヲ構ヘ三箇月以上居住スル者ナルニ於テハ之ニ對シ縣稅戸數割又ハ其ノ附加税ヲ賦課シ得ルモノトス(行政四年法一〇二二號三一頁)

◎戸數割及戸別割ノ賦課額ノ當否

- 一 村會カ其權限ニ基キ見立ニ依リテ各戸ノ等差ヲ設ケ縣稅戸數割ノ賦課額ヲ定メタルトキハ該戸數割ノ賦課ハ違法ナリト云フヲ得ス從テ之ニ附加セル村稅ハ適法ナリトス(行政七年法一四一六號二五頁)
- 二 或年度ノ縣稅戸數割及附加税タル村稅戸數割ノ納稅義務アル者ノ戸別割ノ稅額ハ本稅タル戸數割ノ其者ノ其年度ノ稅額ニ一定ノ稅率ヲ乘シテ之ヲ定ムヘキモノニシテ其者ノ財產ノ有無職業ノ有無等ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘキモノニ非ス(行政八年法一五四四號二四頁)
- 三 縣稅戸數割ヲ賦課スルニ當リ家族ニアラサル同居人ノ納稅及財產ヲ標準トシテ其賦課額ヲ定ムルモ違法ニアラス(行政四五年法七九一號二五頁)
- 四 各戸ノ貧富ノ程度ニ應シテ縣稅戸數割ヲ賦課スル場合ニ於テ構戸者及同居家族ノ特有財產又ハ收入ヲ合セテ縣稅戸數割賦課ノ標準ト爲スモ違法ニ非ス(行政六年法一三二八號三一頁)
- 五 市町村會カ縣稅戸數割賦課ノ等級標準ヲ別ニ議定セス縣稅賦課規則ニ依リ各戸ノ等級課額ヲ議定シ之ニ依リテ市町村ノ爲シタル賦課ハ違法ニ非ス(行政六年法一三二八號三一頁)
- 六 地方税規則及府縣制第九條第一項ノ規定ハ府縣稅ノ賦課方法ニ關スル事項ニ外ナラサルヲ以テ縣稅戸數割ノ賦課方法ニ付法律勅令ニ規定ナシト謂フヲ得ス(行政六年法一三二八號三一頁)



◎附加税ノ不服ト本税戸數割トノ關係

一 縣稅戸數割ノ賦課ト之カ附加税ノ賦課トハ各別個ノ處分ニシテ共ニ構戸ノ事實ヲ要件トスルモノナリ單ニ本稅タル縣稅戸數割ヲ納付シタリトノ事實ヲ以テ附加税ノ賦課ニ對スル異議ノ申立ヲ除斥スルノ理由ト爲スコトヲ爲ス(行政六年法九八三號二二三頁)

二 戸數割ノ稅額ニ關スル不服ノ事由ハ之ヲ以テ戸數割ノ稅額ニ對スル不服ノ事由ト爲スコトヲ得サルモノトス(行政八年法一五五四號二四頁)

附 戸數割ノ賦課ヲ違法トシテ之ヲ取消シタルトキハ其附加税タル戸數割ノ賦課モ當然違法トシテ取消サルヘキモノトス(行政四二年法五八一號一八頁)

◎府縣稅賦課ノ取消ヲ求ムル訴ノ相手方

假令縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏員ノ發シタル徵稅令書ニ基ツキタルモノトスルモ賦課ノ處分ヲ爲シタル者ハ該處分ノ取消ヲ求ムル訴ニ於テ對手タルノ責ヲ免レサルモノトス(行政四三年法六五九號一六頁)

◎地方官官制(請法令上卷一四九頁)  
◎府縣屬ノ職務ト贈賄罪(續利法七〇四頁)

重要物產同業組合法

本卷九二一頁ニ在リ

畜牛結核病豫防法

(明治三十四年法律第三五號)

第五條 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ隔離スヘシ

◎結核病ノ疑アル畜牛ノ隔離

結核病ノ疑アル畜牛ヲ検査員ノ指揮ニ從ヒ一度隔離シタルモ後其徵候ナク全ク疑ナキモノト認メタルニヨリ検査員ノ許可ヲ受ケスシテ他ノ健康牛ト混飼シタルモノハ畜牛結核病豫防法第五條ノ所謂「隔離セサル」モノニ該當ス(法曹會決議記事五年第二六卷第八號五九頁)

請法令 [子] 畜牛結核病豫防法

五條

畜產組合法

三條

著作權法

一一條

一〇七五

地方官廳ノ發スル命令ノ公布式

(明治二十七年勅令第九十九號)

第一條 警視廳令、北海道廳令、府縣令、島廳令及郡令ニハ其警視廳令、北海道廳令、府縣令、島廳令又ハ郡令ナルコトヲ明記シ警視廳令、北海道廳長官、府縣知事、島司又ハ郡長各之ニ署名シ公布ノ年月日ヲ記入シテ同日之ヲ公布スヘシ

◎府縣令公布ノ意義

府縣令ヲ登載シタル印刷物ヲ配付シテ府縣令ヲ公布スル場合ニ於テハ府縣廳ヨリ其印刷物ヲ外部ニ發送スルニ非サレハ明治二十七年勅令第一九九號第一條ニ規定スル府縣令ノ公布アリタルモノニ非ス(行政九年評議九卷諸法二〇五頁)

地方官官制

畜產組合法

第三條 畜產組合ハ法人トシ畜產上ノ改良發達ヲ圖リ組合員ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的トス

第十一條第二項 組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ徵收シ、其ノ違反ニ係ル物品ノ沒收其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

◎畜產組合ノ性質

畜產組合ハ國家力其ノ畜產上ノ改良發達ヲ圖リ組合員ノ利益ヲ増進セシムル爲メ國家ノ所謂助長行政事務ノ一部ヲ右組合ニシテ行ハシムル爲メ設立セシムルモノニシテ該組合ハ公法人ノ性質ヲ有スルモノトス(長崎控一四年法二四四五號一三頁)

◎畜產組合ノ過怠金徵收ト假處分

畜產組合ノ定款及之ニ附帶スル規程ノ有效ナリヤ否其定款ニ基キ組合員ニ對シ過怠金徵收ノ權利アリヤ否ニ關スル事項ノ如キハ公法的權利關係ニシテ私法的關係ニ非ス從テ其權利關係ニ付キ假處分



分チ求ムルハ固ヨリ司法裁判所ノ權限ニ屬セサルモノトス(長崎控一四年法二四四五號一三頁)

### 茶業組合規則

第七條 組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニ依リ便宜ノ地ニ聯合會議所ヲ設ケ全國便宜ノ地ニ中央會議所ヲ設ケヘシ

### ◎茶業組合聯合會議所ノ性質

續民法七三一頁「公私法人ノ區別」ノ一及五參看

### 貯蓄銀行條例

貯蓄銀行法(第二四條)ニ依リ廢止

貯蓄銀行條例ハ諸法令上卷三一二頁參看

### 著作權法

(明治三十二年法律第三十九號)

### ◎著作權ノ發生

一 出版又ハ公示ハ著作權ノ必要條件ニ非ス著作ナル事實アレハ出版又ハ公示ナクシテ直ニ著作權發生スルモノト解スヘキモノトス(京城地方法院一四年法二四三七號一二頁)

二 著作權ハ吾人ノ精神の創作ニ依ツテ發生スル權利ニシテ或ハ書籍ヲ著シ或ハ講演ヲナシ或ハ繪畫彫刻ヲ作り或ハ樂譜ヲ作ル等製作夫レ自身ニ因リテ著作權ハ發生スルモノナリ故ニ此權利ノ發生ハ著作ノ意思如何ヲ問ハス唯精神の創作ナル事實アレハ直チニ權利ヲ發生ス恰モ吾人カ家屋ヲ建築スルトキハ之カ所有權ヲ取得スルカ如ク著作ナル事實アレハ之ニ因リテ直チニ權利ヲ發生スルモノトス故ニ著作物ノ目的内容價值ノ如何ハ著作權ノ發生ニ關係スルコトナシ隨ツテ治安ヲ妨害シ風俗ヲ擾亂スル著作物ニアリテモ著作權ヲレ、自身ハ猶存在シ得ヘキナリ(法律大辭典第五冊子部)

三 著作者カ其創意ニ成リタル新曲ヲ表彰スルニ樂譜ヲ以テスルト否トニ拘ハラズ苟モ之ヲ外部ニ發表シ其存在ヲ認識スルコトヲ得ヘキ外形のノ手段方法ヲ執リタルトキハ著作權ハ之ニ因リテ發生スルモノトス(大審三三刑一三六一頁)

### ◎音樂的著作物ト著作權

諸法令 (子) 著作權法

第一條 文書演述圖畫建築彫刻模型寫真其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス。文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權興行權ヲ包含ス

### ◎著作權ノ本體

著作權トハ文書圖畫其他精神の製作物ニ對シ認メラレタル一種ノ權利ニシテ著作權ノ本體ハ新ナル思索ノ結晶タルコトヲ要スト解スルチ相當トス(東京地八年評論八卷諸法二三七頁)

### ◎著作權ノ目的タリ得ルモノ

一 著作權法ニ於テ著作權ヲ認メ著作者ノ利益ヲ保護スルハ創作物ヲ尊重スル趣旨ニ出ツルモノナルチ以テ思想ヲ内容トスルモノニ非サレハ之ニ著作權ヲ認メテ保護スルノ要アルコトナシ(東京地三三刑九七九號七六五頁)

二 著作權法第一條第一項ニ所謂美術ノ範圍ニ屬スル著作物中ニハ美術ナル語ノ通常ノ意義ニ從ヒ其中ニ包含セラルルモノト認メラルヘキ創作物ハ勿論廣ク藝術ニ關スル創作物ヲ包含シ音樂的著作物モ亦其一種トシテ著作權ノ目的タルチ得ルモノト解スヘキモノトス(大審三三刑一三六〇頁)

一 樂譜ヲ用キスシテ新曲ノ創作ヲ爲ス場合ニ於テ作曲者カ著作權ヲ取得スルニハ其創意ニ係ル新旋律カ一種ノ定型ヲ成シテ其頭腦ニ深キ印象ヲ存シ因テ以テ作曲者チシテ隨時隨所ニ之ヲ反覆セシムヘキ可能性ヲ有スルノ程度ニ於テ熟シタルコトヲ必要トシ演奏ト共ニ消滅ニ歸シ演奏者ノ腦裡ニ於テ其定型ヲ遺留セサルモノハ音樂的著作物トシテ法律ノ保護ヲ受クルコト能ハサルモノトス(大審三三刑一三六二頁)

二 即興的音樂ノ演奏ニシテ純然タル瞬間的創作ニ屬スルモノハ演奏者ノ主觀ニ於テ其旋律力確定スル場合又ハ演奏者カ特ニ樂譜ヲ作りテ之ヲ固定セシメタル場合ノ外ハ音樂的著作物トシテ著作權法ノ保護ヲ受クルコトヲ得サルモノトス——蓋音機ニ於ケル音樂ノ寫調ハ作譜ト異リ著作物複製ノ方法タルニ過キスシテ其取得ノ原因ニアラス從テ確乎タル旋律ニ依ラサル即興的音樂ノ演奏ハ音機ニ寫調シテ之ヲ形體化スルモ之カ爲メ著作權ヲ生スルコトナキモノトス(大審三三刑一三九二頁)

三 舊法(大正九年改正法以前)ノ規定ニヨレハ音樂的著作權ノ發生ニハ先人未發ノ獨特ナル新旋律ヲ包含スル音樂上ノ創作ヲ爲スコトヲ必要トシ殊ニ該作物カ記號ヲ用ヒテ樂譜ニ表象セラレサル場合ニ於テハ即興的作曲ニアラスシテ作者ノ頭腦ニ深キ印象ヲ存シ隨時隨所ニ反覆シ得ヘキ一種ノ無形ノ樂譜ノ成立スルコトヲ以テ其要件トシ單ニ從來存スル樂曲ヲ聽麗ナル音聲又ハ卓越セル技巧ヲ用キテ演奏歌唱スルモ之ニヨリテ著作權ヲ取得スルコトヲ得



サルモノトス(大阪地一〇年法一八七四號二二頁)

◎脚本樂譜ノ意義

◎興行權ヲ包含セサル著作權

一 脚本樂譜ノ著作權カ興行權ヲ包含スルハ著作權法ノ明定シタル所ナリト雖モ著作物ニシテ題スルニ脚本又ハ樂譜ノ名ヲ以テスルモ其内容カ脚本タリ樂譜タルノ實質ヲ具ヘサルモノハ之ヲ脚本又ハ樂譜ナリト謂フ可ラス從テ其著作物ノ著作權ハ興行權ヲ包含セ...

又ハ樂譜ノ實質ヲ具ヘス從テ其著作權ハ興行權ヲ包含セサルモノトス(大審四年民四〇六頁)

二 右ノ原審判決(福岡地三年評論三卷諸法九八頁、法九五八號六五三頁)

三 樂譜カ著作權ノ目的タル要件(次項)

◎樂譜カ著作權ノ目的タル要件

一 樂譜カ著作權ノ目的トシテ法律ノ保護ヲ受クルニハ其樂譜ノ内容ヲ爲スヘキ音樂的思想ノ存在スルコトヲ必要トシ此思想ヲ表現スル形態タル個々ノ文字又ハ符合ノ間ニ一定ノ脈絡牽聯ヲ有シ彼...

共ニ必ス一定ノ文句ノ伴フコトヲ必要トス是レ文句ヲ必要トセサル樂曲ト其性質ヲ異ニスル所ナリトス(千葉地五年法一〇九九號二二頁)

三 著作權法第一條ニ所謂樂譜ノ著作權トハ著作カ其ノ音樂ニヨリテ表彰セラレル樂曲即チ新旋律ヲ創作シタル場合ニ於ケル創作...

者ノ權利ヲ指稱スルモノニシテ他人ノ創作シタル樂曲ニ付單ニ其ノ音階曲節ヲ表示スヘキ記號ヲ案出シテ作譜ヲ爲シタルニ過キサ...

法一三八頁)

四 著作權法第一條ニ所謂樂譜ノ著作權ハ其樂譜ニ依リテ文章セラ...

ル樂曲即チ新旋律ヲ創作シタル者ノ權利ヲ指稱シ他人ノ創作シタル樂曲ニ付キ單ニ其音階曲節ヲ表示スヘキ記號ヲ案出シテ作譜...

◎脚本ノ増減補綴ト著作權

ハ音律ノ高低拍子ノ長短ヲ調節スルコトヲ得ス僅ニ言語上又ハ文章上ノ説明ト相俟テ其音階曲節ヲ想起シ得ルニ過キサルトキハ該記號ハ著作權法ニ所謂樂譜タルノ性質ヲ有セス(大審五年民三九頁)

一 脚本ノ著作權ハ脚本ニ依リテ表彰セラレル劇曲ヲ創作シタル場合ニ於ケル創作...

者ノ權利ヲ指稱スルモノニシテ他人ノ創作シタル樂曲ニ付單ニ其ノ音階曲節ヲ表示スヘキ記號ヲ案出シテ作譜ヲ爲シタルニ過キサ...

二 近江源氏先陣圖ノ劇ハ安永年代ヨリ世ニ行ハレ來レル著明ノモノナルコトハ...

ノ事實ナリトス而シテ中西貞行カ著作シタリト稱スル本件甲第一號證ノ脚本ノ内容ヲ在來ノモノト對比スルニ劇ノ仕組ニ於テ相同...



動スニ足ラサルヲ以テ抗告會社ノ申請ヲ理由ナシト認メ之ヲ却下シタル原決定ヲ相當トス(大阪控九九年法一六八七號一六頁)

◎樂譜脚本ノ版權ノ讓受ト著作権

明治二十九年當時施行セラレタル樂譜脚本條例第一條出版法第一條版權法第三條ニ依レハ樂譜脚本ノ版權ハ著作人ニ非サレハ假令登錄ヲ受ケルモ之ヲ有スルコトヲ得サルモノニシテ登錄ニ依リテ權利ヲ設定取得スルモノニアラス從テ著作人ニ非スシテ其當時内務省ニ於テ音曲軍談ウカレ節樂譜脚本又ハ淨瑠璃一芝居脚本等ノ登錄ヲ受ケタル者ヨリ之ヲ讓受ケタリトスルモ讓受人ハ著作權ヲ有セス從テ興行權ヲ有セサルモノトス(東京地三年法九八九號八〇七頁)

◎同旨判例(東京控三年評論三卷諸法二二八頁)

◎演劇ノ番付ト著作権

演劇ノ番付書單純ナル人名簿ノ如キハ何レモ著作権ノ目的物タルヲ得サルモノト謂ハサルヘカラサルモ尙モ相當思考力ヲ旋ラシ組織的ニ之カ排列方法ヲ講シ新ナル思索ノ内容ヲ保有セルモノト認ムヘキモノニアリテハ右人名簿ノ如キモ之ニ著作権ヲ認メ之ヲ保護スヘキ理由アルモノトス(東京地八年評論八卷諸法二二七頁)

◎職業別電話帳ト著作権

セシムルハ即チ右後段ノ複製方法ニ屬スルモノトス蓋シ此種ノ機器カ其構造裝置ニ依リ人ヲシテ原作物ヲ忠實ニ感覺セシムルニ堪能ナル以上ハ之ヲ製造スルハ即チ其複製ノ觀念ニ適スルヲ以テナリ(大審三年刑一三八八頁)

第十五條 著作權ノ相續讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
無名又ハ變名著作物ノ著作人ハ其ノ實名ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

◎著作権ノ享有ト登録ノ有無

一 著作権ノ享有ハ登録ノ有無ニ依リテ左右セラレルモノニ非ス從テ著作人カ登録ヲ爲ササルモ其著作権ヲ侵害シタル者ハ偽作ノ制裁ヲ免レサルモノトス(大審四〇年刑二六三頁)  
二 著作人カ其權利ヲ登録スルト否トハ唯偽作者ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スルヲ得ルト否トノ差アルニ止マリ其權利ハ登録ノ有無ニ拘ハラス當ニ之ヲ享有スルモノトス(大審三六六年刑一三〇五頁)

◎著作権ノ讓渡ト登録

著作権法第十五條第三項ハ著作権ノ讓渡又ハ質入ハ之ヲ登録スル

東京市電話番號ヲ職業ニヨリ見別シ容易ニ索引シ得ヘキ考案ヲ施シタル職業別電話帳ハ毫モ思想ノ内容ヲ認ムヘカラサル單純ナル人名簿ト區別シ著作権ノ目的ヲ得ルモノトス(東京地八年評論八卷諸法二二七頁)

◎繪葉書ト本條ノ圖畫

人又ハ物ノ形象ヲ描寫シタル繪葉書ハ著作権法第一條ノ所謂圖畫ナリトス(大審四〇年刑二六三頁)

◎複製ノ意義

一 著作権法第一條ニ所謂複製トハ原著作物ト全然同一ナルモノヲ再製スル行爲ノミヲ云フニ非ス原著作物ノ枝葉ニ於テ多少ノ修正増減ヲ加フルモ其趣旨彼此同一ナル程度ノモノヲ作製スル行爲モ亦之ニ包含ス(大審三七年刑八四九頁)

二 著作権法第一條第三十條第一號ニ所謂「複製」トハ人ヲシテ原作ヲ感覺セシムルニ適スル一切ノ有形ノ手段方法ヲ意味シ著作權ノ目的タル新曲ヲ演奏シ既成ノ樂譜ヲ謄寫シ又ハ樂譜ナキ新曲ヲ樂譜ニ寫調スルコトハ何レモ音樂的著作物ノ複製トナルハ勿論演奏ニ係ル唱歌管絃ノ聲音ヲ特種ノ機器ニ寫調シ其機器ノ構造裝置ニ依リテ人ヲシテ其聲音ヲ感覺スルコトヲ得セシムルモ亦其方法タルヲ失ハサルモノニシテ活動寫眞機音機ニ文學的學術的音樂的著作物ヲ寫調シ看客聽者ノ視官聽官ニ觸レテ原作物ヲ直覺

ニ非サレハ民事上其權利ノ優先ヲ爭フカ如キ場合ニ於テ第三者ニ對抗スルコトヲ得スト規定シタルニ止マリ登録ナキ讓渡ハ絕對的ニ效力ナシトスルモノニ非ス故ニ其讓渡ニシテ適法ナル以上ハ編令登錄ヲ經サルモ讓受人ハ完全ニ其權利ヲ取得セルモノトス(大審三七年刑七六六頁)

◎著作権相續ノ對抗要件

改正前ノ著作権法ニ於テモ著作権ノ相續ハ其登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(大審四年民二八三頁)

◎第三者ノ意義

一 著作権法ノ改正前ノ第十五條第三項ニ所謂第三者トハ當事者又ハ其一般承繼人以外ノ者ニシテ讓渡又ハ質入ニ關シ其登録ノ欠缺ヲ主張スルニ付キ法律上正當ナル利益ヲ有スル者ヲ指稱スルモノトス(東京地三年法九六〇號二三三頁)  
二 著作権法ニ不法ニ侵害シタル者ハ其登録ノ欠缺ヲ主張スルニ付テ正當ノ利益ヲ有スル第三者ニ該當セサルモノトス(大審四年民二八三頁)

◎樂譜ニ依ラサル樂曲登錄ノ方式

樂譜ニ依ラサル樂曲ノ登錄ハ單ニ其題號又ハ文句ニ依リテ抽象的ニ著作物ノ何タルヤヲ知ラシムルノミヲ以テ足り文字又ハ其他ノ



符號ヲ用キテ具體的ニ著作物ノ内容ヲ表示スルノ必要ナシ(大審三三三頁)

第二十九條 著作權ヲ侵害シタル者ハ偽作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

◎本條ノ適用範圍

擅ニ他人ノ音聲的著作物ヲ直接ニ蓄音機ノ變管又ハ變板ニ寫調スルハ我著作權法第二十九條ニ所謂著作權ノ侵害ヲ構成スルハ勿論他人ノ音聲的著作物ヲ寫調シタル變管又ハ變板ヲ基礎トシ理學的化學的作用ニ依リ更ニ之ヲ他ノ變管又ハ變版ニ寫調スルハ原作ヲ感覺セシムルキ手段方法トシテ直接寫調ノ場合トモ異ナル所ナク其爲亦假作ヲ構成スルコトヲ免レサルモノトス(大審三三三頁)

◎偶然暗合シタル著作ト本條

著作權法第二十九條ハ既ニ發行シ又ハ興行シタル他人ノ著作物ヲ權節剽竊シ其著作權ヲ侵害シタル者ノ責任ヲ定ムル法條ニシテ

者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

◎本條ノ旨趣及適用

一 著作權法第四十條ハ他人ノ氏名稱號ヲ濫用シテ著作物ヲ發行シタル者ヲ罰スルノ旨趣ナルヲ以テ著作名義者ノ同意アル場合ニ於テハ縱令實際其者ノ著作ニ非サルモノヲ其者ノ著作ナリトシテ發行スルモ其者ハ何等名譽ヲ毀損セラルコトナク又之カ爲メ世人讀者ノ信用ヲ誤マラシムル虞アリトモ云フヲ得ス(大審三三三頁)

二 著作權法第四十條ノ趣旨ハ著作權法以前ニ存セル權利ニシテ著作權法ノ定メタル著作權ノ性質ヲ具フル場合ニ付テ保護ヲ與フルモノト解スヘキヲ以テ假令版權法ニヨリ版權ヲ得タル場合ト雖モ著作權法ニ所謂著作權ニ該當セザルトキ同條ノ適用ヲ受クルコトヲ得サルモノトス(東京控五年評論五卷諸法一三八頁)

第四十二條 虛偽ノ登錄ヲ受ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

◎虛偽登錄罪ノ構成

諸法令 [子] 著作權法

同一ノ材料ニ依リ編輯シ故意又ハ過失ナクシテ偶然暗合シタル著作ハ之ニ包含セサルモノトス(大審三八年民六六五頁)

第三十七條 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ偽作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

◎定期刊行物ノ轉載ト偽作ノ刑責

著作權法施行前ヨリ著作權ノ存續セル定期刊行物ハ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルモ著作權者ニ於テ之ヲ複製スルノ專權ナ有ル故ニ苟モ其承諾ヲ經スシテ轉載シタル以上ハ縱令記事ノ出所ヲ明記スルモ偽作ノ刑責ヲ免レサルモノトス(大審三七年刑一七一八頁)

◎偽作物發賣頒布ノ禁止ト周知ノ認定

偽作物ノ發賣頒布ハ法律ノ禁止スル所ニシテ道ハ苟モ著作ニ從事スル者ノ周知ヲ認ムヘキ事實ナリトス(東京地四二年法六一一號九頁)

第四二條 著作權者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル

苟モ登錄ニシテ虛偽ナル以上ハ公正證書タル登錄簿ノ内容ニ對スル公ノ信用ヲ害シ又ハ害スヘキ虞アルヲ以テ其登錄カ不正ナル目的ニ出テタルト否トテ問ハス著作權法第四十二條ノ虛偽登錄罪ヲ構成スルモノトス(大審六刑一七四頁)

第四十四條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作權者ノ死亡シタルトキ第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

◎偽作者ニ對スル官廳ノ告訴權

遞信省カ著作權ヲ侵害セラレタル場合ニ於テハ著作權法第四十四條ノ被害者ノ位地ニ在ル者ハ即チ國ニシテ其國ヲ代表スル者ハ遞信大臣ナリトス從テ遞信大臣ハ刑事訴訟法第五十四條ニ依リ代理人ニ委任シテ偽作ノ告訴ヲ爲スコトヲ得(大審四〇年刑二六三頁)

◎大學總長ノ偽作ノ告訴

帝國大學總長ハ大學ヲ總轄シ其ノ一般ノ事務ヲ掌理スルモノナレハ大學ニ關スル法律關係ニ付キ國ヲ代表スルノ權利ヲ有ス從テ國カ東京帝國大學ノ名ニ於テ著作權ヲ有スル場合ニ總長カ偽作者ニ



對シテ告訴ヲ爲シタルハ適法ナリ(大審三七年刑二一三六頁)

◎雜誌編輯人ト偽作ノ告訴

一學會ノ雜誌編輯人カ著作權ヲ登錄シ順次後任ノ編輯人ニ之ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ現在ノ編輯人ハ偽作者ニ對シテ有效ニ告訴ヲ爲シ得ルモノトス而シテ其編輯人カ一個人ノ資格ニ於テ著作權ヲ有スルヤ否ヤハ告訴ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ボサス(大審三七年刑七六六頁)

第四十七條 本法施行前ニ著作權ハ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

◎本條ノ法意

著作權法第四十七條ニ所謂本法ノ保護トハ單ニ新法ニ定メタル保護其モノヲ指稱スルニ止マリ從前ノ著作物ハ新法所定ノ條件ヲ具備セサレハ其保護ヲ享有セシメサルノ意義ニ非ス(大審三七年刑一七一八頁)

◎本法前ノ著作權ノ保護

一 大正九年八月十九日公布ノ法律ニ因リ改正セラレタル著作権法第一條ニハ著作物中ニ演奏歌唱ヲ加ヘタルヲ以テ改正以後ニ於テハ演奏歌唱モ亦著作物トシテ同法ノ保護ヲ受クルニ至リタルカ同法第四八條ノ規定ハ右改正ノ際其儘存置セラレタルニヨリ其後ニ於テ實用ナキ規定ナリト解スルヲ得サルノミナラス前示ノ如ク新ニ著作物中ニ演奏歌唱ヲ加ヘタルヲ以テ恰モ明治三二年著作權法施行ノ當時施行規定トシテ同條ヲ設ケル必要アリシト同シク改正後ハ新ニ加ヘラレタル著作物ニツキ施行規定トシテ必要アルモノトス(大審一〇年評論一〇卷諸法三〇五頁)

二 複製音譜盤ノ販賣カ改正法施行後ナル大正九年十一月十日ニ爲サレタルモ著作権法第四十八條ニヨレハ著作権法施行前偽作ト認メラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノヲ同法施行後ニ發賣頒布スルモ權利ノ侵害ト爲ラサルモノニシテ該法條ハ前著者著作権法一部改正ニ付テモ亦適用アルモノト解スルヲ妥當トスヘキニヨリ假リニ控訴人カ改正規定ニ因リ著作權ヲ取得セリトスルモ被控訴人ハ改正法施行前ニ複製シタルモノヲ販賣シタルニ過キサルヲ以テ偽作者トシテ損害賠償ノ責任ヲ負フヘキモノニアラス(大審地一〇年法一八七四號二二頁)

著作權ノ基礎ハ著作ノ勞力ニ關ヒ著作者ヲシテ其ノ著作物ヨリ生スル利益ヲ專有セシムルニアルヲ以テ著作權ヲ有スル者ハ著作者又ハ其ノ承繼人ニ限ルチ本則トスルモ脚本著作條例ニ依レハ著作權ノ保護ヲ受クル者ハ右ノ外著作權ノ繼續年限中著作權ノ所有者死亡シ其ノ權利ノ相續ナキ場合或ハ著作者又ハ相續者ヲ知ル可カラサル著作ニシテ未ダ出版セサルモノハ一定ノ手續ヲ履踐シテ著作權ノ保護ヲ受クルコトヲ得可キハ脚本著作條例第一條版權法第十四條ノ規定ニ徴シ明カニシテ該權利ハ著作權法實施後ニ於テモ同法ニ依リ之カ保護ヲ受ク可キコトハ著作權法第四十七條ノ規定スル所ナリ(名古屋區三年法九三一號五二二頁)

第四十八條 本法施行前偽作ト認メラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現在スルトキハ本法施行後五年間仍其ノ複製ノ爲ニ之ヲ使用スルコトヲ得

◎複製ノ意義(第一條)

◎本條ノ適用

著作物保護萬國同盟條約

◎續民法六九四頁「開戦ノ私權ニ及ボス影響」ノ二三四參看

徵兵令

(明治二十二年法律第一號)

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ每年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又ハ毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

◎戰事ニ際スル召集

後備ノ在郷軍人ニシテ帝國カ獨逸帝國ト交戦状態中勤務演習ノ爲メ聯隊ニ參集方傳達ヲ受ケタルトキハ其召集ハ徵兵令第一六條前段ノ戰時ニ際スル召集ニ該當シ其後段ノ平常ニ在ル召集ニ該當セサルモノトス(大審刑七年評論七卷諸法四四頁)



第二十三條第一項 第十三條第一項ニ掲グル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歳迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歳迄ニ止ミ又ハ二十八歳ヲ過ケルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス

韓國、露國領沿海州、露國領薩哈噠、清國、香港、澳門以外ノ外國ニ在ル者ハ本人ノ願ニ由リ召集ヲ猶豫ス滿三十二歳迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二歳ヲ過ケル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スルモノハ此限ニ在ラス

◎本條ノ旨趣

徵兵令第二十三條ニ所謂「第十三條第一項ニ掲グル學校ニ在校ノ者」トハ眞ニ其學校ニ入學スルノ意思ナク有シ通學ノ可能ナル者カ入學ニ付キ學校管理者ノ承認ヲ經テ現在其學籍ヲ有スル場合ヲ指稱ス從テ眞ニ入學スルノ意思ナク又ハ通學不能ナルニ拘ハラズ入學ノ申込ヲ爲シ學校管理者ノ承認ヲ受ケタル者ノ如キハ之ニ包含

◎外國滞在猶豫者ノ兵役義務

◎徵兵令違反罪ト非常上告

一 外國滞在者滿三十二歳ヲ過キタル後歸朝シタルトキハ假令其以前ニ於テ短時日間歸來シタルノ事實アリトスルモ徵集スルヲ得ス(法曹會決議三年二四卷一一號六一頁)

二 被告ハ所論ノ如ク外國滞在中ノ故ヲ以テ徵集猶豫中ノ處大正八年十一月十日滿三十二歳ニ達シタルカ故ニ舊徵兵令第二十三條第二項ニ依リ右同日以後當然國民兵ニ編入セラレ爾後身體檢査ヲ受ケル爲徵兵令ニ出頭スル義務ヲ負フコトナキモノトス然ルニ原判決ニ於テハ大正十年七月十二日ニ在リテモ尙被告ヲ徵兵延期中ノモノニシテ如上同一ノ責務アリト認メ徵兵令第三十條ノ二ニ依リ之ヲ處罰シタルハ即チ所犯當時ノ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタルモノニシテ非常上告ハ理由アリ(大審一一年法二〇〇八號二〇頁)

◎徵兵令違反ト再審

受刑人寅治ハ大正十一年八月九日旭川區裁判所ニ於テ總意書所掲ノ徵兵令違反ノ事實ニ付罰金貳拾圓ニ處セラレタルモ本訴ノ證據書類タル北海道網走郡女滿別村長代理書記ノ作成ニ係ル戶籍簿本

ナキ場合ハ常ニ同第三十條ニ依リ處斷スルノ外途ナシトス(民刑局長四三年民刑甲第五三號回答)

◎徵兵令違反罪ニ故意ヲ要セサルヤ

一 徵兵令違反ノ犯行アリトシテ之ヲ處罰スルハ他ニ何等例外的規定ノ見ルヘキモノナキ限リ被告人ニ於テ其不行爲ノ當時責罰ノ基礎トナルヘキ義務履行ノ事實關係ヲ認識スルヲ必要トス(仙臺地元年評論一卷諸法一一二頁)

二 徵兵令違反罪ノ告知ノ爲ニ於テハ被告カ假令告知ノ内容ヲ知ラザリシモノトスルモ其コレヲ知ラスシテ身體檢査ヲ受ケザリシハ畢竟被告自己ノ過失ニ歸スルモノナルヲ以テ被告カ疾病ソノ他正當ノ事故ニヨリ身體檢査ヲ受ケルコト能ハザリシ事實ノ存セザル限リハ徵兵令第三〇條ノ處罰ヲ免レサルモノトス(宮城控二年評論一卷諸法一一二頁)

〔批評〕徵兵令第三〇條ノ罪ハ過失ニテ足ルト列示シタルハ不當ニシテ吾人ノ贊同セザル所ナリ(評論一卷諸法一一三頁)

◎本條ニ所謂正當ノ事故

刑ノ執行中ナル被告人ハ徵兵令第二十一條ニヨリ徵集ヲ延期セラルヘキモノナレハ被告人カ右身體檢査ヲ受ケザリシハ同第三十條ニ所謂正當ノ事故アリタルニ基因シ法律上犯罪ヲ構成セザルモノト謂ハサルヘカラス(若松區一二年法二二三號一九頁)

及同村長作成ノ徵兵ニ關スル調査ニ據レハ受刑人寅治ハ原判決說示ノ本籍以外ニ重複シテ北海道網走郡女滿別村大字網走村女滿別原野二十三線十號ニ於テ本籍ヲ有シ居リタルカ爲同年五月三日既ニ右本籍地所轄網走徵兵署ニ於テ規定ノ身體檢査ヲ受ケ甲種歩兵ニ合格シタルコト明確ナレハ前示公正證書ニ依リ原判決ノ證據タリシ上川支隊在勤北海道網走關廳作成ノ告發書中受刑人カ徵兵適令者ニシテ故ナク規定ノ身體檢査ヲ受ケザリシ旨ノ記載ハ錯誤ニ出テタルコトヲ認ムルニ足ル右ハ刑事訴訟法第三百一條第五號ニ該當スル場合ナルヲ以テ本訴旨ハ理由アリ(大審一一年法二〇〇四四號二八頁)

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲ササル者及正當ノ事故ナク身體ノ檢査ヲ受ケザル者ハ三圓以上三十四圓以下ノ罰金ニ處ス

◎忌避ノ目的有無ト適用法條

徵兵令第三十一條ハ常ニ徵兵忌避ノ目的アルコトヲ必要トシ其目的ノ有無ハ事實ニ依テ之ヲ認定スヘキモノニシテ推定ヲ許サズ從テ單ニ犯人所在不明ノ理由ヲ以テ直ニ同條ヲ適用スヘキモノニアラス忌避ノ目的アリタルコトヲ認定スルニ足ルヘキ具體的ノ徵憑



◎召集不應罪ト理由不備

明治十三年ノ徵兵ニシテ明治二十八年ニ於テ後備役ニ在ル事由ヲ明示セス轉ク後備兵ノ召集ニ應セザル所爲アリトシテ處罰シタル判決ハ事實理由ヲ明示セザル不法アルモノトス(大審三三年刑一 一卷五三頁)

◎壯丁ノ旅程ヲ妨ケタル船長ノ處分

徵兵検査ヲ受ケヘキ壯丁アリ相當ナル時期ニ居所ヲ出發シ相當ナル時期ニ出發シタル汽船ニ依リ(外ニ通路ナキモノト假定セヨ)検査所ニ赴カントスルニ際シ船長故意ニ検査期日ニ後レシムル爲メ壯丁ノ意ニ反シテ汽船ヲ進行セシメス遂ニ検査不應ノ結果ヲ生セシメタルトキハ船長ハ不作爲ニ依リ間接ニ真正不作爲ヲ犯シタルモノトス(泉二博士評論一卷刑法三二頁)

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三回以上三十回以下ノ罰金ヲ附加ス

◎本條ノ解釋

一 徵兵令第三十一條ニハ兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐欺ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ云々ト規定シテ其規定ハ苟モ兵役ヲ免レルノ目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シタル者ハ身體検査ノ結果兵役ヲ免レルト否トチ問ハス之ヲ處罰スル趣旨ナリト解釋スルチ相當トス蓋シ同法條ノ處罰規定ハ逃亡、潛匿、身體毀傷、疾病作爲其他詐欺ノ所爲ヲ用ヒタル者カ兵役ヲ免レルコトヲ目的トシタルコトヲ必要トスルモノナレトモ兵役ヲ免レル目的ヲ達シタルコトヲ必要トスルモノニアラサレハナリ(明治三十八年(れ)第一一〇八號事件本院判決參照)故ニ兵役ヲ免レルコトヲ目的トシテ身體ヲ毀傷シタル者カ身體検査上果シテ其毀傷ニ基因シテ不合格トナリタルヤ否ヤ又ハ他ノ原因ニ依リ不合格トナリタルヤ否ヤハ右犯罪成立ニ影響ヲ及ボスヘキ事項ニアラス(大審四年刑一三〇二頁)

二 徵兵令第三十一條ニ所謂「兵役ヲ免カレンカ爲メ」ナル語ハ之ヲ廣義ニ解シ詐欺ノ手段ヲ用キテ絕對ノ兵役ノ免除(即チ換義ノ免役)延期猶豫ヲ得ントシタル場合チ網羅シタルモノト解釋セサル可ラス是レ免役ナル語ノ文理解釋トシテ正當ナルノミナラス若シ第三十一條ノ「兵役ヲ免カレンカ爲メ」トアルチ換義ニ解シ絕對ノ兵役免除ノ場合ノミチ指シ其他ノ場合チ包含セザルモノトス

ルトキハ詐欺ノ手段ヲ用キテ延期猶豫ヲ得ントシタル不正者流ニ對シテハ何等ノ制裁ナキニ至リ兵員徵集ノ精確ヲ期スル徵兵令ノ精神ハ充分ニ貫徹シ得ヘカラサルニ至ルヘシ新ノ如キハ決シテ同令ノ趣旨ナリトスルチ得ス故ニ此點ヨリ觀察スルモ同令第三十一條ハ不正ノ免役延期猶豫チ一括シ「兵役ヲ免カレンカ爲メ」ナル包括的ノ文詞ヲ用キ之ニ對スル刑罰ノ制裁ヲ設ケタルモノト解釋スルチ相當トス故ニ原院カ詐欺ノ手段ヲ以テ徵集ノ猶豫ヲ得ントシタル被告ノ所爲ニ對シ同條ヲ適用處斷シタルハ相當ナリ(大審三九年刑六二二頁)

三 徵兵令第三十一條ハ逃亡ノ當時兵役忌避ノ意ナキ者又ハ其意アリタルヤ否ヤ不明ナルモノト雖モ其後兵役忌避ノ意ヲ以テ復歸セザリシコトヲ認定シ得ヘキ場合ナル以上ハ之ヲ適用處斷スヘキモノトス(民利局長三〇年甲第一八四號回答)

四 徵兵忌避罪ハ犯人カ徵兵適齡ニ達シタル時ニ於テ始テ成立スルコトハ當院判例ノ風ニ認ムル所ナルチ以テ徵兵適齡ニ達セザル前兵役ヲ免レルノ目的ヲ以テ詐僞ノ所爲ヲ用ユルモ該罪ヲ以テ論スルコトヲ得ス如斯場合ニ該罪ヲ構成スルニハ徵兵適齡前ニ行ヒタル詐僞ノ所爲ニ因リ適齡ノ當時現ニ兵役ヲ免レルカ又ハ其詐僞ノ所爲ニ因リテ作爲セラレタル狀態カ徵兵適齡ノ當時迄存續シ兵役免脫ノ結果ヲ惹起シ得ヘキ虞アリタルコトヲ要ス(大審三三年刑一五三九頁)

五 苟モ兵役ヲ免レル目的ヲ以テ兵役免脫ノ結果ヲ生シ若クハ其結果ヲ生スヘキ虞アル創傷ヲ作爲シタルモノハ之ニ依リ兵役ヲ免レルト否トチ問ハス徵兵令第三十一條ニ依リ處罰セザルヘキコト同法條ノ趣旨ニ照シ明カナリ而シテ判示眞僞ノ狀態カ入營期迄繼續シ爲メニ兵役免脫ノ結果ヲ生シタルヤ否ヤチ說示スルノ要ナキモノトス(大審一〇年法一八三九號一二頁)

◎徵兵忌避罪ノ成立

一 徵兵忌避ハ徵兵令第三條ノ徵兵適齡ニ達シテ初メテ成立スヘキモノトス(大審三一年刑三卷二〇頁)

二 徵兵忌避ノ豫備手段トシテ虛僞ノ入籍届ヲ爲スモ犯罪ヲ構成スルコトナシ(大審三一年刑三卷二〇頁)

三 徵兵適齡以前ニ於テ兵役ヲ免レル爲メニ用ヒタル詐欺ノ所爲ハ徵兵忌避罪ノ豫備ニ止マリ滿二十年ニ達シテ始メテ其犯罪ヲ構成ス(大審三一年五卷五一頁)

四 徵兵ヲ免レンカ爲メノ目的ヲ以テ虛僞ノ轉籍ヲ爲シタル事實アルニ於テハ徵兵令第三十一條ノ犯罪ヲ構成ス(民利局長三〇年甲第一二四號回答)

五 兵役ヲ免レンカ爲メ徵兵検査官ニ對シ視力ニ故障アル旨詐僞ノ陳述ヲ爲シタル行爲ハ徵兵令第三十一條ニ所謂詐僞ノ所爲ヲ用キタルモノト該當スルモノトス(大審二年刑八七一頁)

六 徵兵適齡者カ視力ニ故障アル旨詐稱スルモ假性近視ナル疾病ヲ



作爲スルモ荷モ兵役ヲ免カレルノ目的ニ出テタル以上ハ等シク徵兵令第三十一條ノ犯罪ヲ構成シ同一ノ刑ニ處スヘキモノナレハ第一審判決ヲ檢査ノ劈頭ニ明視シ得タル視標ヲ明視シ得スト詐稱セリト認定シタル行爲ヲ第二審裁判所ニ於テ事實ノ觀察ヲ異ニシ假性近視ナル疾病ヲ作爲シタルモノナリト認定スルモ第一審判決ヲ取消ノ要ナキモノトス(大審六年刑一二四二頁)

◎在郷軍人ト徵兵忌避

補充兵豫備後備ノ軍籍ニアル者兵役ヲ免レ又ハ戰時平時ニ於テ召集ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ逃亡潛匿シタル場合ハ陸軍刑法廿二條兵令違犯ノ罪ヲ構成ス(民利局長三七年甲第四二五號回答)

◎適齡者外ノ本條違犯行爲

徵兵令第三十一條ノ犯罪ヲ構成スルニハ犯人ニ徵兵適齡者ノ身分アルコトヲ要ス從テ他人ヲ適齡者ノ爲メ同條所定ノ行爲ヲ爲スモ實行正犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス(大審三七年刑一八七四頁)

◎徵兵忌避罪ノ從犯

兵役ヲ免レントスル者ノ行爲ヲ容易ナラシメタル場合ニ於テ荷モ其幫助ヲ受ケタル者カ徵兵適齡者ノ身分ヲ有スル以上ハ幫助ヲ爲シタル者ハ其身分ノ如何ニ拘ハラズ從犯罪ヲ構成スルモノトス(大審三七年刑一八七四頁)

◎徵兵代應者ノ制裁

徵兵代應者入營中發覺シタルトキハ代應者ハ直ニ軍人ノ資格ヲ失フシ氏名詐稱ノ罪ハ普通裁判所へ起訴スヘキモノトス(二一年刑事局長回答)

◎徵兵忌避罪ト連續犯

徵兵忌避罪ニ關シテハ徵兵適齡滿限ニ至ルマテ年々一罪ヲ構成スルヲ以テ連續犯トシテ處分ス可シ(刑法局長心得一八年第九一七號通牒)

徵兵事務條例施行細則

◎檢査不參屆並事故止届ノ届出義務者

徵兵事務條例施行細則第三十九條第一號ノ徵兵檢査不參屆並二同條第一號ノ事故止届ハ本人其ノ届出ヲ爲スヲ以テ本則トシ本人之ヲ爲スコト能ハサル場合ニ特例トシテ其ノ戶主又ハ家族中家事ヲ擔當スル者之ヲ爲スヘキモノトス從テ本人不參屆ヲ爲スコト能ハサルニ因リ戶主其ノ届出ヲ爲シタルモ不參ノ事故止ミタルトキハ事故止届ハ本人之ヲ爲スヘキ本人之ヲ爲スコト能ハサル場合ニ戶主又ハ家族中ノ家事ヲ擔當スル者之ヲ爲スヘキモノトス(大審一二年刑二七〇頁)

昭和二年三月二十五日印刷  
昭和二年三月二十七日發行

判決總覽 諸法令中卷

正 價 金 四 圓

編輯者兼

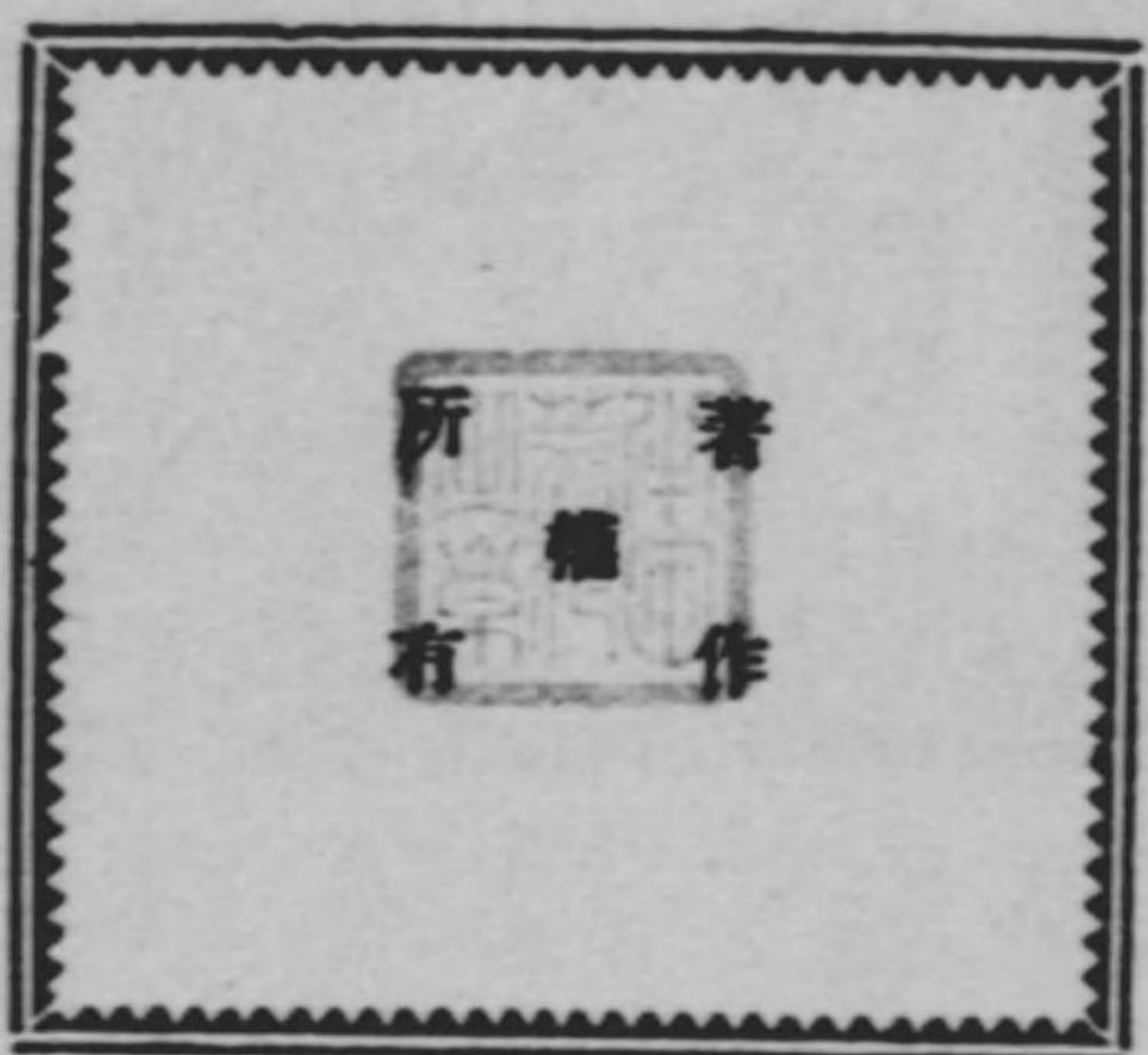
半田 鍵次郎

名古屋市東區關銀治町二丁目五番地

印刷者

半田 賢一

名古屋市東區關銀治町二丁目五番地  
判決例調査所印刷部



發賣元

東京市本郷區  
駒込淺嘉町

振替貯金口座  
東京二四八九九番

酒井書店

大賣捌

東京市神田區  
一橋通町  
大阪市北區  
曾根崎上三

有斐閣  
大同書院

東京市神田區仲樂町  
朝鮮京城鐘路  
大阪市中北區  
法政書房

發行所

名古屋市東區  
關銀治町二丁目

振替貯金口座  
名古屋五九二番

判決例調査所



會 究 研 例 判

# 判 例 研 究

每月一回 第五百頁 發行 定價 金 十五 錢

會長前大審院長法學博士富谷銈太郎

## ◎本誌の内容

本誌の内容、之れを二つに區別いたします。

第一は「研究篇」であります。此の篇におきましては、わが判例研究会の審究論議に成りました「決議」を掲載いたします。此の決議は當該判例の事實の認定及法律の適用が、果して國民の實生活に適合するや否やを論評いたしましたもので、判例の社會的合理性を判定する資料に供したものであります。

第二は「總攬篇」であります。此の篇は月次公表せらる、大審院を始め各裁判所の、新判例の列示要領を遺憾なく掲載し、之に加ふるに「關係問題」として、在來判例中右新判例に關連する判例一切の題目及其の所在書名、頁等を洩れなく列挙いたしましたもので、判例の比照乃至牽連關係を考察するに隨一無二の要具であります。

なほ「法律問題」に於きましても「判例」に關するものは「判批」と冠せまして一層見安くいたし、また「法令索引」におきましては裁可及公布の兩年月日を掲げました。なほ本誌は「ルーズリーフ式」に編輯いたして、一年毎に各篇各部を別冊とし「研究篇」「總攬篇」「法律問題」「法令索引」といたされまするやう注意が拂つてあります。

「眞に生きた法律」をお求めになる方に、此れ以上の好資料はありますまい。

判例界の黄金鑛脈―讀者諸君!―判例界には、多くの黄金鑛脈が存してゐます、いや無盡蔵であります、まだまだ未發掘であります、發掘技師!...、發掘技師!...。と大なる叫で求めてゐます。此の一事特に御記憶あらむことを...

發行所

大取次

取次店

判決例調査所

酒井書店

有斐閣、巖松堂、大同書院、法政書房

名古屋市中區區銀座町

振替名古屋五九二番

東京市本郷區淺草町

振替東京二四八九番

大阪

大同書院、法政書房

有斐閣、巖松堂



777N-55

判決例調査所發行

# 大審院民事破毀棄却判例集

菊版 總六號 印刷鮮明  
 裝幀 青革 極上製  
 ▼大正破毀 八圓半  
 ▼大正棄却 九圓半  
 ▼明治破毀 十一圓  
 ▼明治棄却 十一圓  
 ▼總索引附 八圓半  
 大正十五年迄  
 外ニ送料を要す

## 内容

### 第一「本文」

本書は大審院判例の大正十五年一月に至る 既往三十餘年間の民事判例全部を蒐集し、其の破毀判例に付ては上告論旨及判決理由の各全文を採り、棄却判例に付ては上告論旨を省きて判決理由の全文を採り各判示事項に一々簡明適切なる標題を掲げ、之を編年順に配列網羅したるもの 總頁數無慮七千餘頁に亘る……

### 第二「索引」

本書の總索引は約七百頁の大部に亘る逐條體のものにして、わが大審院既往三十餘年間の、無数の民事判例を、各法各條の下に一目瞭然たらしめたるもの。如何なる問題も即時に且つ自由自在に引出すことを得べし。「時は金なり」を叫ばるる現代法曹諸彦の御注文御申込み連日激増するの一方のみ……

### ◎御注意……

判決録所蔵の諸彦！  
 本書の總索引は、一々大審院判決録又は同判例集の年、卷、頁を明示して大審院民事判決録又は同判例集の總索引たる效用をも兼ねしめたるを以て、本書の内「總索引附」の一巻は、現に大審院判決録又は同判例集を所蔵する諸彦よりの御注文續々これあり。判決録を所蔵せられて未だ本書の「總索引附」を備へられざる諸彦速に御申込みあれ！

發賣所

酒井書店

振替東京二四八九九番

取次店 東京 有斐閣・松堂 大 大 同書院・政法書房



